

< I E / E X > < 国際 I E > サービス

T C P / I P - F T P ご利用の手引き

< 変更履歴 >

初版 2001年11月

第一版 2005年10月 CopyrightをG International Japan 2005に変更

第二版 2006年03月 FTPメッセージ変更 本書

第三版 2006年05月 CopyrightをGXSに変更

## 目次

1	TCP/IP-FTPの概要	1
2	ご使用にあたって	3
2.1	TCP/IP-FTPを使用するための登録	3
2.2	TCP/IP-FTPとのセッションの開始	3
2.3	IE/EXへのログイン	4
2.4	IE/EXのパスワードの変更	4
2.5	TCP/IP-FTPとのセッションの終了	5
3	cdコマンドの使用方法	6
3.1	コマンド形式	6
3.2	複合宛先指定	8
4	メッセージの表示及びライブラリー	9
4.1	メッセージの名前の形式	9
4.1.1	システム・タイプ 0、4の場合	10
4.1.2	システム・タイプ 3の場合	12
4.2	表示形式	14
4.2.1	liststyle long	14
4.2.2	liststyle short	14
4.2.3	liststyle filename	14
4.3	ライブラリー	16
4.3.1	ライブラリーの宛先の指定	16
4.3.2	ライブラリー・メンバーの表示	17
5	ファイル転送	18
5.1	ファイルの送信	18
5.1.1	単一ファイルの送信	18
5.1.2	EDIデータの送信	20
5.1.3	ライブラリー・メンバーの保管	21
5.2	ファイルの受信	22
5.2.1	単一ファイルの受信	22
5.2.2	複数ファイルの受信	26
5.2.3	メッセージ・キーを用いた受信の際のFTP応答	29
5.2.4	EDIデータの受信	29
5.2.5	ライブラリー・メンバーの取り出し	30
5.3	データ変換	31
5.3.1	ファイルの送信時	31
5.3.2	ファイルの受信時	31
5.4	PASVサポート	32
5.5	メッセージの削除	34
5.6	EDIデータ	36
5.7	サポート・ファイル	37
5.8	ライブラリー・メンバーの削除	38
5.9	パススルー処理	39
5.9.1	概要	39
5.9.2	IEコマンドの本体	40
5.9.3	site passthruの応答の受信	41
5.9.3	site passthruの応答の受信	41
5.9.4	応答無しのコマンド	42
5.9.5	エラー応答	42

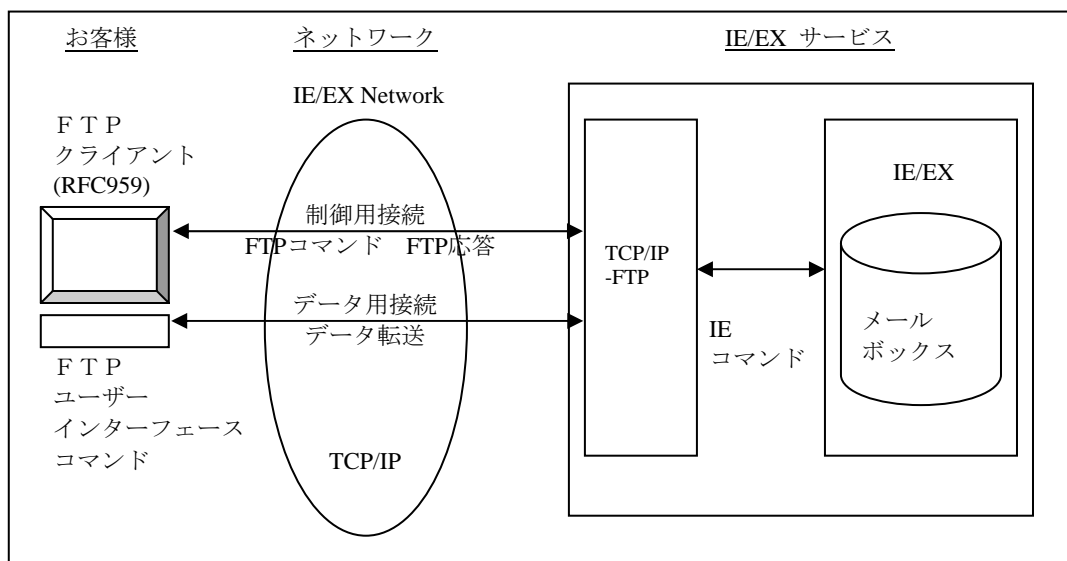
5. 10 複合宛先指定の使用 .....	43
6 siteコマンドの使用方式 .....	46
6. 1 FTPセッション制御のためのSiteコマンド.....	46
6. 1. 1 site idle .....	46
6. 1. 2 site system.....	47
6. 1. 3 site liststyle.....	47
6. 1. 4 site resp226.....	48
6. 2 IE/EXセッション制御のためのSiteコマンド.....	49
6. 2. 1 site confirm.....	49
6. 2. 2 site probe .....	50
6. 2. 3 site sesskey.....	50
6. 3 メッセージ制御のためのSiteコマンド.....	51
6. 3. 1 site msgrcpts.....	51
6. 3. 2 site msgname [name] .....	51
6. 3. 3 site msgseqn [sequence] .....	51
6. 4 IE/EX機能のためのSiteコマンド.....	52
6. 4. 1 site arcrid .....	52
6. 4. 2 site getarchive arcrid.....	52
6. 4. 3 site getaudit.....	53
6. 5 site passthru .....	54
7 その他.....	56
7. 1 内包宛先処理.....	56
7. 2 EX形式状況確認メッセージ .....	58
7. 3 クライアント・アプリケーション.....	58
7. 4 メッセージのコミットについて.....	58
7. 5 障害時の対応.....	59
7. 6 その他の考慮点 .....	60
A サポートしているFTPコマンド .....	61
A-1 FTPユーザー・コマンド .....	61
A-2 FTPコマンド .....	63
A-3 FTPコマンドとクライアントFTPコマンド.....	65
B 変換テーブル .....	66
B-1 ASCII to EBCDIC.....	66
B-2 EBCDIC to ASCII .....	67
C オーディット・レコード・フォーマット.....	68
D 対話形式によるセッション例 .....	71

## 1 TCP/IP-FTPの概要

国内IE/EX及び国際IE（以下、IE/EXと記述）は、GXS e-businessインターチェンジ・サービスであり、通信相手の許可に基づいてメッセージ交換を行うことができます。

各々のユーザーをIE/EXのメール・ボックスでは、  
**顧客コード・ユーザーID**  
の形式で区別します。

図1-1. IE/EX FTPインターフェースの概要図



IE/EX File Transfer Protocolインターフェース（以下TCP/IP-FTPと呼びます）は、標準のFTPサーバーをエミュレートしています。RFC959に準じたTCP/IP FTPクライアントを使用する必要があります。また、インターネット経由の場合は、SSL V3.0対応のTCP/IP-FTPソフトウェアが必要となります。

ご利用になるお客様は、IE/EXサービスが使用できるネットワークを経由して、TCP/IPプロトコルでTCP/IP-FTPに接続し、FTPクライアントを用いてFTPコマンドを送ってください。FTPクライアントは、制御用接続を介してFTPのユーザー・コマンドをTCP/IP-FTPに送り、FTP応答を受け取ります。データ転送の際には、データ用接続をオープンして実際にデータを送受信します。

TCP/IP-FTPは、FTPコマンドをIE/EXのIEコマンドに変換してIE/EXとの処理を行います。TCP/IP-FTPを使用するとIE/EXのメール・ボックスのメッセージに対して、あたかもリモートファイル・システムのファイルかのようにアクセスできます。

TCP/IP-FTPは、次の2点において標準のFTPと異なります。

- ①お客様がTCP/IP-FTPにログイン後、通信する相手を **c d** コマンドにより指定します。
- ②お客様がメッセージを受信した後IE/EXはお客様のメール・ボックスから、そのメッセージを削除します。

(注) TCP/IP-FTPはFTPプロトコルのみをサポートします。e-mail (SMTP) や t e l n e t はサポートしません。

## 2 ご使用にあたって

### 2.1 TCP/IP-FTPを使用するための登録

AT&Tグローバル・サービス セキュアIPサービス経由で、IE/EXをご利用になるためには、セキュアIPサービスの登録が必要となります。この登録に関しては、IE/EXのヘルプ・デスクに申請を行ってください。

次にIE/EXサービスの顧客コード、ユーザーID（又このユーザーIDに対するパスワード）を取得してください。これでIE/EXサービスにログインできるようになります。この取得に関してはIE/EXのヘルプ・デスクの案内に従ってください。パスワードについては初回変更する必要があります。この時、ユーザーIDと同じパスワードは使用できませんのでご注意ください。パスワードとして使用できる文字規則の詳細については『<IE/EX> 概説書』をご参照ください。又、パスワードは連続3回以上間違えた場合はリボーク（無効）されます。

又、実際にメッセージ交換を行うためには、通信相手とのパートナー・リストの登録、同報通信を行う場合はデリバリー・リストの登録、内包処理を行う場合はメッセージ処理の登録、又そのうちユーザー形式を使用するならユーザー形式定義の登録、別名の登録が必要になります。

以降本文中に、網掛けされた箇所がでてきますが、それらはIE/EXのその機能を利用する上でIE/EXに必要な登録をあらわします。登録についてはIE/EXのヘルプ・デスクの案内に従ってください。

### 2.2 TCP/IP-FTPとのセッションの開始

お客様のFTPクライアントのプロンプトから、`open`コマンドによりTCP/IP-FTPとセッションを開始することができます。

一般的なコマンド例は以下の通りです。

```
open FTPゲートウェイのFQDN
```

FQDN (Fully Qualified Domain Name) は以下のように指定します。

```
****. ****  
ホスト名. ドメイン名
```

FQDNは各サービスのご利用の手引きを参照してください。

## 2. 3 I E / E X へのログイン

お客様が I E / E X にログインするには、**u s e r** コマンドを用います。

一般的なコマンド例は以下の通りです。

```
u s e r   a c c o u n t . u s e r i d   [ p a s s w o r d   [ / n e w p a s s ] ]
```

パラメーターの意味は以下の通りです。

*a c c o u n t* : お客様を識別する I E / E X の顧客コードです。

*u s e r i d* : お客様固有の I E / E X のユーザー I D です。

*p a s s w o r d* : *u s e r i d* に対するパスワードです。

*n e w p a s s* : 現在のパスワードを変更したい場合の新しいパスワードです。

このコマンドを I E / E X とのセッション中に入力した場合は、現在の I E / E X のセッションは終了し、新しいセッションが開始されます。

ユーザー I D と同じパスワードは使用できません。パスワードに「/」(スラッシュ)は使用できません。パスワードとして使用できる文字規則の詳細については『< I E / E X > 概説書』をご参照ください。

顧客コード、ユーザー I D、パスワードの組み合わせを 3 回続けて間違えると、リボーク(無効)されます。この場合は、I E / E X のヘルプ・デスクに連絡しパスワードを再設定してください。

## 2. 4 I E / E X のパスワードの変更

お客様はパスワードの変更をログイン時に (**u s e r** コマンドを用いて) 行うことができます。又、セッション中に **p a s s** コマンドを用いても変更できます。

一般的なコマンド例は以下の通りです。

```
p a s s   o l d p a s s w o r d / n e w p a s s w o r d
```

*o l d p a s s w o r d* : 現在のパスワード

*n e w p a s s w o r d* : 新しいパスワード

**u s e r** コマンドで新しいパスワードを指定してログインに失敗した場合、パスワード変更は不成功です。ログインに成功した場合、F T P 応答によりパスワード変更の成功が確認できます。

## 2. 5 TCP/IP-FTPとのセッションの終了

お客様はTCP/IP-FTPのセッションを**bye**又は**quit**コマンドにより終了することができます。

又、お客様のセッションは、FTPの制御用接続（FTPコマンドの入力、FTP応答の出力）が4分間アイドル状態であると切断されます。このアイドル・タイムアウトが発生すると、TCP/IP-FTPは以下のFTP応答を出力し、FTPの制御用接続を切断します。

**421 Service disconnected - Timed out.**

### 例：セッションの開始と終了

以下は、TCP/IP-FTPを通してIE/EXとセッションを開始した後、すぐにセッションを終了した例です。

以降本文中に、以下のような形式でUNIXをクライアントにしたセッション例がでできますが、桁や位置等は異なっていることがありますのでご注意ください。

リスト2-1. セッションの開始と終了例

項番	FTPセッションの入力と応答
1	ftp> <b>open x.x.x.x</b> 220 x.x.x.x IE-FTP server (v4r1m0.d) ready on system JPN.
2	Name (x.x.x.x): <b>IABC.IABC001</b> 331 Enter Password.
3	Password: 230 Ready.
4	ftp> <b>bye</b> 221 Goodbye. Thank you for using EDI Services.

1. **open** コマンドを出して、TCP/IP-FTPに対してセッションを開始します。
2. IE/EXに対してログインします。IE/EXの顧客コード、ユーザーIDを入力します。形式は、顧客コード. ユーザーIDです。
3. パスワードを入力します。  
この例では、非表示のため表示されていません。
4. セッションを終了させるために**bye** コマンドを入力します。  
これは、TCP/IP-FTPとのFTPセッションとIE/EXのセッションの両方を終了させます。

## 3 cdコマンドの使用法

### 3. 1 コマンド形式

`cd`コマンドは、通常はファイル・システムを操作するのに用いる `change directory` コマンドの省略形です。しかし、TCP/IP-FTPにおいては、お客様がデータ交換したい通信相手や受信したいメッセージの差出を特定するために使用します。

TCP/IP-FTPにおける `cd` コマンドの使い方は、通信相手を特定するとともにメッセージの識別も特定します。即ち、お客様が送信する時は、通信相手の宛先とメッセージを識別するためのメッセージ識別コードを指定します。

お客様が受信する時は、差出者と差出者のどのメッセージを受信するかを識別するためのメッセージ識別コードを指定します。

(注意) 一つのFTPセッションでの `cd` コマンドの有効性は、次の `cd` コマンドが入力されるまでです。

`cd` コマンドの形式は以下の通りです。

```
cd [destination] [/class]
```

パラメーターの意味は以下の通りです。

① `destination` の意味は次の通りです。

- ・単一ユーザーの指定 “顧客コード. ユーザーID”  
(例: `cd IABC. IABC002`)

- ・EDIデータの送信 “`edi [ (alias table) ]`”  
(注意) サポートされるEDIのタイプはEDIFACT、UNTDI、X12、UCSです。  
TCP/IP-FTPは、EDIタイプを自動的に判別し処理します。

- ・EDIデータの送信 “`editype [ (alias table) ]`”  
(注意) サポートされるEDIのタイプはEDIFACT、UNTDI、X12、UCSです。  
お客様はEDIデータをIE/EXに送信する場合、ニックネーム・テーブルを使用することができます。

- ・TCP/IP-FTPのサポート情報の照会及び入手 “`support`”  
(注意) このコマンドの後に、`get filename` コマンドでサポート・ファイルを受信できます。これに関しては「5. 7 サポート・ファイル」を参照してください。

- ・デリバリー・リストによる指定（同報通信の時に使用）
  - “ ( l i s t ) . リスト名 ”
  - (例： c d ( l i s t ) . w d 6)
 (注意) リスト名は事前にデリバリー・リストの登録をしておく必要があります。  
 「2. 1 TCP/IP-FTPを使用するための登録」を参照してください。
- ・グローバル・ニックネーム・テーブルによる指定
  - “ ( g X X X ) . a l i a s n a m e ”
  - (例： c d ( g t a b ) . u l t i m a 5)
- ・オーガニゼーション・ニックネーム・テーブルによる指定
  - “ ( o X X X ) . a l i a s n a m e ”
  - (例： c d ( o t a b ) . d q 6)
- ・プライベート・ニックネーム・テーブルによる指定
  - “ ( p X X X ) . a l i a s n a m e ”
  - (例： c d ( p t a b ) . f f 7)
- ・ライブラリーの宛先の指定
  - “ ( l i b r ) . l i b a c c t . l i b n a m e ”
- ・内包宛先処理を使用する場合
  - “ I E E X . I E E X E M B / c l a s s ”
- ・受信時にお客様宛の全てのメッセージを指定
  - “ \* . \* / \* ”
 (注意) この指定は受信時のみ有効です。又、 c d コマンドが指定されなかった場合、この “ \* . \* / \* ” がデフォルトの値となります。
- ・EX形式状況確認メッセージを受信する場合
  - “ \* . \* / @ s t a t u s ”

② *c l a s s* はメッセージ識別コードのことです。

メッセージ識別コードは1-8桁の英数字です。

メッセージの送信時の指定は、送信したファイルのメッセージ識別となります。  
 メッセージの受信時の指定は、お客様のメール・ボックスに蓄積されたメッセージを選択するための識別子となります。“\*”を指定した場合は、ある差出者に対して全てのメッセージの指定となります。

又、“?”は、文字又は文字列に対してワイルドカードとして働きます。

(例) “IN?”はINVOICE、INPUT等のメッセージ識別コードを代表します。  
 “?ASE”はPURCHASE、INCASE等のメッセージ識別コードを代表します。

### 3. 2 複合宛先指定

`get`、`put`、`ls` コマンドについて従来の `cd` コマンドによる宛先の明示的指定をしなくても、以下の複合宛先を使用できます。

複合宛先の形式は以下の通りです。

- ・複合宛先としてのキーワード “`ie::`”
- ・通常、`cd` コマンドで指定される宛先とメッセージ識別コード
- ・オプションとして、CDH情報にファイル名を付加するため、区切り文字 “`/`” の後にローカル・ファイル名を指定

次のコマンドは、

```
put invoices.970101 ie::iabc.iabc001/invoice/invoices.970101
```

以下の二つのコマンドと同じです。

```
cd iabc.iabc001/invoice
put invoices.970101
```

複合アドレス指定は、これ以前の `cd` コマンドの宛先指定を上書きしますが、有効なのは指定した時のコマンドだけです。前に指定した `cd` コマンドの値はそのまま有効です。

## 4 メッセージの表示及びライブラリー

### 4. 1 メッセージの名前の形式

`ls` コマンドにより、お客様のメール・ボックス内にあるメッセージをファイル名の一覧の形式で表示することができます。

表示されるものは、お客様が最後に入力した `cd` コマンド（「3 `cd` コマンドの使用法」の①を参照）で指定した“顧客コード・ユーザーID/メッセージ識別コード”に合致したメッセージです。もし、お客様のメール・ボックスにある全てのメッセージを表示したい場合は、`ls` コマンドを入力する前に `cd *.*/*` コマンドを指定してください。

メッセージのファイル名の形式は、`site system` コマンドで指定したシステム・タイプに依存します。

表 4-1. システム・タイプの種類

システム・タイプ	説明
0	デフォルトの値です。 <code>LIST</code> 又は <code>NLIST</code> コマンドの応答よりメッセージのファイル名を作成しますが、そのファイル名は長いファイル名で“ <code>msgkey. _IE</code> ”の形式になります。
1, 2	未使用
3	<code>LIST</code> 又は <code>NLIST</code> コマンドの応答よりメッセージのファイル名を作成しますが、そのファイル名は短いファイル名で“ <code>nnnnnnnn. _IE</code> ”の形式になります。
4	<code>LIST</code> 又は <code>NLIST</code> コマンドの応答よりメッセージのファイル名を作成しますが、そのファイル名は長いファイル名で“ <code>msgkey. IE</code> ”の形式になります。 拡張子が“ <code>_IE</code> ”ではなく、“ <code>IE</code> ”となります。

(注) `LIST`、`NLIST`コマンドは、付録「A-2 `FTP`コマンド」を参照してください。  
`FTP`ユーザー・コマンドの `ls -l`、`ls` コマンドに対応します。

通常は、システム・タイプは特に考慮せず、デフォルト値の0を使用してください。指定する場合は「6. 1. 2 `site system`」の `site system` コマンドを使用してください。

#### 4. 1. 1 システム・タイプ 0、4の場合

このシステム・タイプの0、4は、長いファイル名をサポートしているクライアントで使用します。長いファイル名というのは従来のDOSファイル・システムのFAT形式が、8桁+拡張子3桁の11桁という短いファイル名しか使えなかったことに対し、それより長いファイル名を使用することを意味しています。

システム・タイプのデフォルト値は0なのと、最近のクライアントのほとんどが長いファイル名をサポートしていることから、普通のクライアントはシステム・タイプを特に考慮せず、この節の説明のみ参照してください。

メッセージのファイル名の形式は以下の通りです。

***msgkey. \_IE***

*msgkey*はIE/EXにより一意な20桁の文字が割り振られます。

注意1) FAT形式の短いファイル名しかサポートしていないクライアントで、この“*msgkey. \_IE*”を受信すると、*msgkey*の頭8桁がファイル名となります。このため、*msgkey*の頭8桁が同じ別のメッセージを受信した場合、以前に受信したファイルが上書きされてしまいます。このような問題を回避するために「4. 1. 2 システム・タイプ 3の場合」を参照してください。

注意2) 一部のクライアントでは、ファイル・システムで長いファイル名をサポートするものの拡張子に「\_」（下線）を許さないものがあります。このようなクライアントをご使用のお客様は、システム・タイプの4を指定してください。これは拡張子が“\_IE”の代わりに“IE”となります。

## 例：システム・タイプ 0、4の場合のメッセージ表示

リスト4-1. システム・タイプ 0、4の場合のメッセージ表示例

項番	F T Pセッションの入力と応答																														
1	ftp> <b>cd *.*/*</b> 250 Currently to user *.* with class *.																														
2	ftp> <b>ls</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open FFB0599DE169716AD1C1._IE FFB0599DEC041E14D1C1._IE FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE FFB0599F043866BED1C1._IE 226 List for user ( ).*.*, class * transferred 0.K.																														
3	ftp> <b>ls -l</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open <table border="1"> <thead> <tr> <th>Filename (MSGKEY)</th> <th>Sender</th> <th>Class</th> <th>Size</th> <th>Date</th> <th>Time</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FFB0599DE169716AD1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000073</td> <td>010109 140557</td> </tr> <tr> <td>FFB0599DEC041E14D1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000138</td> <td>010109 140609</td> </tr> <tr> <td>FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000203</td> <td>010109 140617</td> </tr> <tr> <td>FFB0599F043866BED1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC003</td> <td>ORDERS</td> <td>0000000043</td> <td>010109 141102</td> </tr> </tbody> </table> 226 List for user ( ).*.*, class * transferred 0.K.	Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time	FFB0599DE169716AD1C1._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000073	010109 140557	FFB0599DEC041E14D1C1._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000138	010109 140609	FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000203	010109 140617	FFB0599F043866BED1C1._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 141102
Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time																										
FFB0599DE169716AD1C1._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000073	010109 140557																										
FFB0599DEC041E14D1C1._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000138	010109 140609																										
FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000203	010109 140617																										
FFB0599F043866BED1C1._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 141102																										
4	ftp> <b>cd /orders</b> 250 Currently to user *.* with class ORDERS.																														
5	ftp> <b>ls -l</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open <table border="1"> <thead> <tr> <th>Filename (MSGKEY)</th> <th>Sender</th> <th>Class</th> <th>Size</th> <th>Date</th> <th>Time</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FFB0599F043866BED1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC003</td> <td>ORDERS</td> <td>0000000043</td> <td>010109 141102</td> </tr> </tbody> </table> 226 List for user ( ).*.*, class ORDERS transferred 0.K.	Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time	FFB0599F043866BED1C1._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 141102																		
Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time																										
FFB0599F043866BED1C1._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 141102																										

1. **cd \*.\*/\*** コマンドを出すことにより、お客様のメール・ボックスにある全てのメッセージの表示を指定します。セッション開始時、この状態がデフォルトの値となっています。
2. **ls** コマンドで、お客様のメール・ボックスにある直前の **cd** コマンドで指定されたものと合致するメッセージを表示します。このシステム・タイプでのファイル名は **IE/EX** が各メッセージに割り振ったメッセージ・キーになります。
3. **ls -l** コマンドは、各メッセージに対して補足の情報を表示します。
4. **cd /orders** コマンドは、メッセージ識別コードが“ORDERS”のもののみを表示したい時に指定します。
5. この **ls** コマンドは、お客様のメール・ボックスの中でメッセージ識別コードが“ORDERS”のもののみを表示します。

#### 4. 1. 2 システム・タイプ 3の場合

このシステム・タイプは、ファイル・システムがFAT形式のクライアントで、ファイル名が拡張子を除いて8桁より長くとれないもの（短いファイル名）に使用します。

メッセージのファイル名の形式は以下の通りです。

***nnnnnnnn. \_IE***

*nnnnnnnn*は、8桁の数字でメール・ボックス中の相対位置に関係します。TCP/IP-FTPセッションの間、このファイル名は保持されます。新たなTCP/IP-FTPセッションを開始すると、この*nnnnnnnn*はリセットされます。

セッション中に到着したメッセージには、一意な新しいファイル名が割り振られます。

## 例：システム・タイプ 3の場合のメッセージ表示

リスト4-2. システム・タイプ 3の場合のメッセージ表示例

項番	F T Pセッションの入力と応答																														
1	ftp> <b>cd *.*/*</b> 250 Currently to user *.* with class *																														
2	ftp> <b>ls</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 00000001._IE 00000002._IE 00000003._IE 00000004._IE 226 List for user ( ).*.*, class * transferred 0.K.																														
3	ftp> <b>ls -l</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open <table border="1"> <thead> <tr> <th>Filename (MSGKEY)</th> <th>Sender</th> <th>Class</th> <th>Size</th> <th>Date</th> <th>Time</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00000001._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000073</td> <td>010109 140557</td> </tr> <tr> <td>00000002._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000138</td> <td>010109 140609</td> </tr> <tr> <td>00000003._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000203</td> <td>010109 140617</td> </tr> <tr> <td>00000004._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC003</td> <td>ORDERS</td> <td>0000000043</td> <td>010109 141102</td> </tr> </tbody> </table> 226 List for user ( ).*.*, class * transferred 0.K.	Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time	00000001._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000073	010109 140557	00000002._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000138	010109 140609	00000003._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000203	010109 140617	00000004._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 141102
Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time																										
00000001._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000073	010109 140557																										
00000002._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000138	010109 140609																										
00000003._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000203	010109 140617																										
00000004._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 141102																										
4	ftp> <b>cd /orders</b> 250 Currently to user *.* with class ORDERS.																														
5	ftp> <b>ls -l</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open <table border="1"> <thead> <tr> <th>Filename (MSGKEY)</th> <th>Sender</th> <th>Class</th> <th>Size</th> <th>Date</th> <th>Time</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00000004._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC003</td> <td>ORDERS</td> <td>0000000043</td> <td>010109 141102</td> </tr> </tbody> </table> 226 List for user ( ).*.*, class ORDERS transferred 0.K.	Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time	00000004._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 141102																		
Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time																										
00000004._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 141102																										

1. **cd \*.\*/\*** コマンドを出すことにより、お客様のメール・ボックスにある全てのメッセージの表示を指定します。セッション開始時、この状態がデフォルトの値となっています。
2. **ls** コマンドで、お客様のメール・ボックスにある直前の **cd** コマンドで指定されたものと合致するメッセージを表示します。このシステム・タイプでのファイル名はセッションの間、お客様のメール・ボックス中の相対位置を示す8桁の一意な文字になります。
3. **ls -l** コマンドは、各メッセージに対して補足の情報を表示します。
4. **cd /orders** コマンドは、メッセージ識別コードが“ORDERS”のもののみを表示したい時に指定します。
5. この **ls** コマンドは、お客様のメール・ボックスの中でメッセージ識別コードが“ORDERS”のもののみを表示します。

## 4. 2 表示形式

`ls -l` コマンドの応答は、`site liststyle` コマンドの指定により変わります。`liststyle` には “long”、“short”、“filename” の三つがあります。

### 4. 2. 1 liststyle long

以下の情報が各メッセージに表示されます。

- ①Filename (MSGKEY) : ファイル名
- ②Sender : メッセージを送信した I E / E X の顧客コード、  
ユーザー I D (差出者)
- ③Class : メッセージのメッセージ識別コード
- ④Size : メッセージのサイズ
- ⑤Date Time : メッセージが送信された日時

Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time
FFB0599DE169716AD1C1._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000073	010109 140557

### 4. 2. 2 liststyle short

各メッセージのファイル名のみが表示されます。  
この値が指定された場合、`ls -l` コマンドの応答は `ls` コマンドと同じ形式になります。

FFB0599DE169716AD1C1._IE
--------------------------

### 4. 2. 3 liststyle filename

以下の情報が各メッセージに表示されます。

- ①ファイル名
- ②オリジナルのファイル名

FFB0599F043866BED1C1._IE order.001
------------------------------------

この機能により、ユーザーが受信したメッセージを元のオリジナル・ファイル名にリネームすることが可能です。

- (注意) メッセージを I E / E X に送信する時、ファイル名が指定されていないと、オリジナルのファイル名のフィールドはブランクになります。  
内包宛先の場合、この機能は無効ですのでフィールドはブランクになります。

## 例：リスト表示の変更と表示

リスト4-3. リスト表示の変更と表示例

項番	F T Pセッションと入力と応答
1	<pre>ftp&gt; site liststyle 200 List Style currently LONG. ftp&gt; ls -l 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open   Filename (MSGKEY)      Sender      Class      Size      Date      Time FFB0599DE169716AD1C1._IE  IABC      IABC002    INVOIC    0000000073 010109 140557 FFB0599DEC041E14D1C1._IE  IABC      IABC002    INVOIC    0000000138 010109 140609 FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE  IABC      IABC002    INVOIC    0000000203 010109 140617 FFB0599F043866BED1C1._IE  IABC      IABC003    ORDERS    0000000043 010109 141102 226 List for user ( ).*.*, class * transferred 0.K.</pre>
2	<pre>ftp&gt; site liststyle short 200 List Style currently SHORT. ftp&gt; ls -l 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open FFB0599DE169716AD1C1._IE FFB0599DEC041E14D1C1._IE FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE FFB0599F043866BED1C1._IE 226 List for user ( ).*.*, class * transferred 0.K.</pre>
3	<pre>ftp&gt; site liststyle filename 200 List Style currently FILENAME. ftp&gt; ls -l 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open FFB0599DE169716AD1C1._IE invoic.001 FFB0599DEC041E14D1C1._IE invoic.002 FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE invoic.003 FFB0599F043866BED1C1._IE order.001 226 List for user ( ).*.*, class * transferred 0.K.</pre>

1. `site liststyle` コマンドを出すと、現在設定されている `liststyle` の値が戻ります。この例では、デフォルト値の “long” です。  
`ls -l` コマンドを出すと、“long” の形式でお客様のメール・ボックスにあるメッセージが表示されます。
2. `liststyle` の値を “short” に変更した後、`ls -l` コマンドを出すと、`ls` コマンドと同じ形式で表示されます。(補足の情報は表示されません)
3. `liststyle` の値を “filename” に変更した後、`ls -l` コマンドを出すと、2列のメッセージが表示されます。  
1列目がメッセージ・キーで、2列目がメッセージを I E / E X に送信した時のオリジナル・ファイル名です。

## 4. 3 ライブラリー

### 4. 3. 1 ライブラリーの宛先の指定

```
cd (libr). libacct. libname
```

(libr) : キーワードです。  
libacct : ライブラリーのオーナー顧客名  
libname : ライブラリー名

### 4. 3. 2 ライブラリー・メンバーの表示

**c d** コマンドでライブラリーを指定してから、**l s** コマンドでライブラリーの中のメンバー情報を表示できます。

**l s -l** コマンドを出した時の出力例は以下の通りです。

Access	Owner	Account	Size	Last updated	Name
-rw-rw----	IABC001	IABC	1010	98/04/24 07:31:20	ORDER.00
-rw-rw----	IABC001	IABC	2020	98/04/24 07:30:56	README
-rw-rw----	IABC001	IABC	3030	98/04/24 07:31:05	TEMPFILE

表 4-2. ライブラリー・メンバーの表示形式

項目	説明
Access	このライブラリーのアクセス許可の情報をUNIX形式で表示します。
Flag 1	常に“-”。
Flag 2-4	ライブラリーのオーナーに対するアクセス許可。 “r--”：オーナーにRead onlyのアクセス許可があることを示す。 “rw-”：オーナーにRead/Writeのアクセス許可があることを示す。
Flag 5-7	ライブラリーのオーナー顧客中のユーザーに対するアクセス許可。 “r--”：ユーザーにRead onlyのアクセス許可があることを示す。 “rw-”：ユーザーにRead/Writeのアクセス許可があることを示す。
Flag 8-10	他のIE/EXユーザーに対するアクセス許可。 “r--”：全てのIE/EXユーザーにRead onlyのアクセス許可があることを示す。 “rw-”：全てのIE/EXユーザーにRead/Writeのアクセス許可があることを示す。 “L--”：IE/EXデリバリー・リスト中のユーザーにReadアクセスを許可する。 “LL-”：IE/EXデリバリー・リスト中のユーザーにRead/Writeのアクセスを許可する。
Owner	ライブラリーのオーナーのユーザーID。
Account	ライブラリーのオーナーへの顧客コード。
Size	メンバーのサイズ。(バイト単位)
Last updated	メンバーが作成または最後に修正された日時。 (形式：“yy/mm/dd”)
Name	メンバー名。

## 5 ファイル転送

### 5. 1 ファイルの送信

#### 5. 1. 1 単一ファイルの送信

ファイルを I E / E X の通信相手先のメール・ボックスに送信するには、次の二つの操作が必要です。初めに、お客様がファイルを送信したい宛先（顧客コード、ユーザー ID）をメッセージ識別コードとともに指定します。次に、TCP / IP - FTP にファイルを送信します。

- ① **c d** コマンドで宛先とメッセージ識別コードを指定します。

```
c d    I A B C . I A B C 0 0 2 / t e x t
```

- ② **p u t**（又は**m p u t**）コマンドを用いて、TCP / IP - FTP にローカルにあるファイルを送信します。

```
p u t    o r d e r . 0 0 1
```

（この例の“o r d e r . 0 0 1”は、クライアントのローカルにある送信したいファイル名です。）

## 例：単一ファイルの送信

以下は、TCP/IP-FTPを通してIE/EXに二つのファイルを送信する例です。データ・タイプには、ASCIIとBINARYの二種類があります。

リスト5-1. 単一ファイルの送信例

項番	FTPセッションの入力と応答
1	ftp> <b>cd IABC.IABC002/text</b> 250 Currently to user IABC.IABC002 with class TEXT.
2	ftp> <b>put order.001</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred to ( ).IABC.IABC002 with class TEXT. O.K.
3	ftp> <b>binary</b> 200 Type now set to I.
4	ftp> <b>cd /cadfile</b> 250 Currently to user IABC.IABC002 with class CADFILE.
5	ftp> <b>put invoic.001</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred to ( ).IABC.IABC002 with class CADFILE. O.K.

1. メッセージを送信したい宛先を指定する為に **cd** コマンドでIE/EXの顧客コード、ユーザーIDとメッセージ識別コードを入力します。  
この例では、宛先は“IABC.IABC002”で、メッセージ識別コードは“TEXT”です。
2. この **put** コマンドは、ローカル・ファイルの“ORDER.001”をIE/EXの“IABC.IABC002”宛にメッセージ識別コードを“TEXT”で送信します。この場合、データ・タイプが明示的に指定されていないので、ASCIIモードで送信されます。データ・タイプがASCIIの場合、データはASCII文字セットからEBCDIC文字セットに変換されて蓄積されます。
3. **binary** コマンドにより、データ・タイプをBINARYに変更することができます。データ・タイプがBINARYの場合、データがASCII文字セットからEBCDIC文字セットに変換されることはありません。
4. この **cd** コマンドは、項番1で指定した宛先（IABC.IABC002）は変更せず、メッセージ識別コードだけを“CADFILE”に変更します。
5. この **put** コマンドは、ローカル・ファイルの“INVOIC.001”をIE/EXの“IABC.IABC002”宛にメッセージ識別コードを“CADFILE”で送信します。この場合、データ・タイプはBINARYです。

## 5. 1. 2 EDIデータの送信

EDIデータを送信するには、二つの操作が必要です。

- ① `cd edi [ (alias table) ]` コマンドを使用します。  
TCP/IP-FTPは、以下のEDIタイプを自動的に判別します。

- EDIFACT
- UNTDI
- X12
- UCS

- ② `put` (又は、`mput`) コマンドを用いて、TCP/IP-FTPにファイルを送信します。

(注意) TCP/IP-FTPでのEDIデータの取り扱いについては「5. 6 EDIデータ」を参照してください。

### 5. 1. 3 ライブラリー・メンバーの保管

リスト5-2. ライブラリー・メンバーの保管例

項番	F T Pセッションの入力と応答
1	<pre>ftp&gt; cd (libr).IABC.TESTLIB 250 Currently to library IABC.TESTLIB</pre>
2	<pre>ftp&gt; ls 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open ORDER.00 226 List for library IABC.TESTLIB transferred 0.K.  ftp&gt; ls -l 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open Access      Owner      Account   Size      Last updated      Name -rw-rw----  IABC001    IABC      1010     98/04/24 07:31:20  ORDER.00 226 List for library IABC.TESTLIB transferred 0.K.</pre>
3	<pre>ftp&gt; binary 200 Type now set to I.  ftp&gt; put contacts 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred to (LIBR).IABC.TESTLIB with class . 0.K. 1010 バイトを 0.003211 秒で送信しました (307.2 キロバイト/秒) ローカル: contacts リモート: contacts</pre>

1. ライブラリー “I A B C . T E S T L I B” に対して **c d** コマンドを出します。
2. **l s** コマンドを出すと、T C P / I P - F T P はライブラリー内の全てのメンバーのリストを表示します。  
**l s - l** コマンドを出すと、各メンバーの詳細情報を表示します。
3. ファイル “c o n t a c t s” がライブラリーに蓄積されます。

## 5. 2 ファイルの受信

ファイルを I E / E X から受信するためには、次の二つの操作が必要です。  
初めに、お客様がどの差出者（顧客コード、ユーザー I D）からのファイルを受信したいかをメッセージ識別コードとともに指定します。次に、受信要求を出します。

- ① **c d** コマンドで差出者とメッセージ識別コードを指定します。

```
c d    I A B C . I A B C 0 0 1 / i n v o i c
```

- ② **g e t**（又は**m g e t**）コマンドを用いて、**c d** コマンドで指定した差出者とメッセージ識別コードで蓄積されているメッセージをクライアントのローカル・ファイルに受信します。

```
g e t    i n v o i c . 0 0 1
```

### 5. 2. 1 単一ファイルの受信

単一ファイルを受信するためには、以下のようにファイル名を指定して **g e t** コマンドを入力してください。

- メッセージのファイル名（メッセージ・キー）を指定した場合、指定したメッセージがお客様のローカルのクライアントにそのファイル名で転送されます。
- その他のファイル名（メッセージ・キー以外のファイル名）を指定した場合、お客様のメール・ボックスにある直前の **c d** コマンドで指定されたものと合致したメッセージのうち、一番初めのものが、お客様のローカルのクライアントに指定したファイル名で転送されます。

## 例：単一ファイルの受信（システム・タイプ 0の場合）

リスト5-3. 単一ファイルの受信例（システム・タイプ 0の場合）

項番	F T Pセッションの入力と応答																								
1	ftp> <b>cd /invoice</b> 250 Currently to user *.* with class INVOIC.																								
2	ftp> <b>ls -l</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open <table border="1"> <thead> <tr> <th>Filename (MSGKEY)</th> <th>Sender</th> <th>Class</th> <th>Size</th> <th>Date</th> <th>Time</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FFB0599DE169716AD1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC001</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000073</td> <td>010109 140557</td> </tr> <tr> <td>FFB0599DEC041E14D1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC001</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000138</td> <td>010109 140609</td> </tr> <tr> <td>FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC001</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000203</td> <td>010109 140617</td> </tr> </tbody> </table> 226 List for user ( ).*.*, class INVOIC transferred O.K.	Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time	FFB0599DE169716AD1C1._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000073	010109 140557	FFB0599DEC041E14D1C1._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000138	010109 140609	FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000203	010109 140617
Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time																				
FFB0599DE169716AD1C1._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000073	010109 140557																				
FFB0599DEC041E14D1C1._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000138	010109 140609																				
FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000203	010109 140617																				
3	ftp> <b>get invoice.001</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred from ( ).IABC.IABC001 with class INVOIC. O.K.																								
4	ftp> <b>ls</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open FFB0599DEC041E14D1C1._IE FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE 226 List for user ( ).*.*, class INVOIC transferred O.K.																								
5	ftp> <b>get FFB0599DF3F50E9DD1C1._IE</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 FFB0599DF3F50E9DD1C1 from . IABC.IABC001 class INVOIC O.K.																								

1. **cd /invoice** コマンドは、メッセージ識別コードが“INVOIC”のメッセージだけを表示させるために出されたものです。顧客コード、ユーザーIDは、**cd** コマンドのデフォルト値“\*.\*”で全てとなります。
2. **ls -l** コマンドは、お客様のメール・ボックスにある項番1で指定したものと合致するメッセージをリストします。
3. **get invoice.001** コマンドは、お客様のメール・ボックスにあるメッセージ識別コードが“INVOIC”のメッセージのうち、一番初めのものをお客様のローカルのクライアントに“INVOIC.001”というファイルで転送します。
4. この**ls** コマンドは、メッセージ・キーのみを表示していますが、項番3で受信したメッセージはメール・ボックス内にありません。

5. この **get** コマンドは、項番4で表示されたメッセージのリストからファイル名に“FFB0599DF3F50E9DD1C1.\_IE”を指定して受信しています。これは、特定のメッセージ（項番4でリストされた2行目のメッセージ“FFB0599DF3F50E9DD1C1.\_IE”）をローカルのクライアントに転送しています。この場合、特にローカルのファイル名が指定されていないため、ローカルのクライアントでのファイル名は、メッセージ・キーと同じになります。

### 例：単一ファイルの受信（システム・タイプ 3の場合）

リスト5-4. 単一ファイルの受信例（システム・タイプ 3の場合）

項番	F T Pセッションの入力と応答																								
1	ftp> <b>cd /invoic</b> 250 Currently to user *.* with class INVOIC.																								
2	ftp> <b>ls -l</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open <table border="1"> <thead> <tr> <th>Filename (MSGKEY)</th> <th>Sender</th> <th>Class</th> <th>Size</th> <th>Date</th> <th>Time</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00000001._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000073</td> <td>010109 144317</td> </tr> <tr> <td>00000002._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000138</td> <td>010109 144324</td> </tr> <tr> <td>00000003._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC002</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000203</td> <td>010109 144331</td> </tr> </tbody> </table> 226 List for user ( ).*.*, class INVOIC transferred O.K.	Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time	00000001._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000073	010109 144317	00000002._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000138	010109 144324	00000003._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000203	010109 144331
Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time																				
00000001._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000073	010109 144317																				
00000002._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000138	010109 144324																				
00000003._IE	IABC	IABC002	INVOIC	0000000203	010109 144331																				
3	ftp> <b>get invoic.001</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred from ( ).IABC.IABC002 with class INVOIC. O.K.																								
4	ftp> <b>ls</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 00000002._IE 00000003._IE 226 List for user ( ).*.*, class INVOIC transferred O.K.																								
5	ftp> <b>get 00000003._IE</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 00000003 from . IABC.IABC002 class INVOIC O.K.																								

1. **cd /invoic** コマンドは、メッセージ識別コードが“INVOIC”のメッセージだけを表示させるために出されたものです。顧客コード、ユーザーIDは、**cd** コマンドのデフォルト値“\*.\*”で全てとなります。
2. **ls -l** コマンドは、お客様のメール・ボックスにある項番1で指定したものと合致するメッセージをリストします。

3. `get invoic.001` コマンドは、お客様のメール・ボックスにあるメッセージ識別コードが“INVOIC”のメッセージのうち、一番初めのもをお客様のローカルのクライアントに“INVOIC.001”というファイルで転送します。
4. この `ls` コマンドは、メッセージ・キーのみを表示していますが、項番3で受信したメッセージはメール・ボックス内にありません。
5. この `get` コマンドは、項番4で表示されたメッセージのリストからファイル名に“00000003.\_IE”を指定して受信しています。これは、特定のメッセージ（項番4でリストされた2行目のメッセージ“00000003.\_IE”）をローカルのクライアントに転送しています。この場合、特にローカルのファイル名が指定されていないため、ローカルのクライアントでのファイル名は、メッセージ・キーと同じになります。

## 5. 2. 2 複数ファイルの受信

複数ファイルを受信するためには、**m g e t** コマンドを用いてください。  
F T Pクライアントは、**N L S T** コマンドを出して受信すべきメッセージの一覧を入手します。  
次に、F T Pクライアントは一覧に基づいて一つずつメッセージを転送します。

(注意) F T Pクライアントの実装の仕方によっては、**m g e t** コマンドの処理の際、一回一回の受信に確認のプロンプトを要求するものがあります。この確認の機能は、クライアントのコマンドである **p r o m p t o f f** コマンドにより、出力しないようにすることもできます。

**m g e t**、**m p u t** コマンドは、クライアント側の実装機能ですのでクライアントにより異なります。ご注意ください。

**m g e t** コマンドは、お客様のメール・ボックスにある直前の **c d** コマンドの指定に合致したメッセージに対して有効です。この場合、各メッセージは、メッセージ単位に別ファイルとして受信されます。

**c d** コマンドで “\* . \* / \*” を指定すれば、お客様宛の全てのメッセージを意味しますが受信する時は、1メッセージ毎の受信となり全て別ファイルとなります。一つのファイルで全てのメッセージは受信できないことに注意して下さい。

## 例：複数ファイルの受信

複数ファイルの受信は、単一ファイルの受信と基本的な考え方は同じです。FTPクライアントは `ls` コマンドを出し、そのリストの各ファイルに対して `get` コマンドを出します。以下は、二つのメッセージ識別コードの形式による IE/EX から複数ファイルを受信した例です。この例では、システム・タイプは 3 です。

リスト 5-5. 複数ファイルの受信例

項番	FTPセッションの入力と応答																																				
1	ftp> <b>prompt off</b> Interactive mode off.																																				
2	ftp> <b>cd *.*/*</b> 250 Currently to user *.* with class *.																																				
3	ftp> <b>ls -l</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open <table border="1"> <thead> <tr> <th>Filename (MSGKEY)</th> <th>Sender</th> <th>Class</th> <th>Size</th> <th>Date</th> <th>Time</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00000001._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC001</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000138</td> <td>010109 144324</td> </tr> <tr> <td>00000002._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC001</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000073</td> <td>010109 145617</td> </tr> <tr> <td>00000003._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC001</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000138</td> <td>010109 145631</td> </tr> <tr> <td>00000004._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC001</td> <td>INVOIC</td> <td>0000000203</td> <td>010109 145639</td> </tr> <tr> <td>00000005._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC003</td> <td>ORDERS</td> <td>0000000043</td> <td>010109 145759</td> </tr> </tbody> </table> 226 List for user ( ).*.*, class * transferred 0.K.	Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time	00000001._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000138	010109 144324	00000002._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000073	010109 145617	00000003._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000138	010109 145631	00000004._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000203	010109 145639	00000005._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 145759
Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time																																
00000001._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000138	010109 144324																																
00000002._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000073	010109 145617																																
00000003._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000138	010109 145631																																
00000004._IE	IABC	IABC001	INVOIC	0000000203	010109 145639																																
00000005._IE	IABC	IABC003	ORDERS	0000000043	010109 145759																																
4	ftp> <b>!cd /u/test/orders</b>																																				
5	ftp> <b>cd /orders</b> 250 Currently to user *.* with class ORDERS.																																				
6	ftp> <b>mget *</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 00000005 from . IABC.IABC003 class ORDERS 0.K.																																				
7	ftp> <b>!cd /u/test/invoices</b>																																				
8	ftp> <b>cd /invoic</b> 250 Currently to user *.* with class INVOIC.																																				
9	ftp> <b>mget *</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 00000001 from . IABC.IABC001 class INVOIC 0.K. 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 00000002 from . IABC.IABC001 class INVOIC 0.K. 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 00000003 from . IABC.IABC001 class INVOIC 0.K.																																				

200 Port command OK.
150 Data connection ready to open
226 00000004 from . IABC. IABC001 class INVOIC 0.K.

1. **prompt off** コマンドは、**mg et** コマンドの際、各ファイルに対するクライアントの確認プロンプトを抑制するために出しています。
2. **cd \*.\*/\*** コマンドは、差出者やメッセージ識別コードに関係なく、お客様のメール・ボックスにある全てのメッセージを受信したい又はリスト表示したい時に出します。
3. **ls -l** コマンドにより、お客様のメール・ボックスの中に5メッセージあることが表示されました。
4. この**!cd** コマンドにより、次の**mg et** コマンドで受信するファイルを置く、クライアントのローカルのディレクトリーとして“/u/test/orders”を指定しています。（**!cd** コマンドは、ローカルのファイル・システムに対する**cd** コマンドですが、FTPクライアントの実装により異なります。**!cd** コマンドの場合もあります。）
5. **cd /orders** コマンドは、メッセージ識別コードが“ORDERS”のものだけを受信又はリスト表示するために指定しています。
6. この**mg et** コマンドは、お客様のメール・ボックスにあるメッセージ識別コードが“ORDERS”の全てのメッセージを受信し、ローカル・ディレクトリーの“/u/test/orders”にリスト表示されたファイル名でストアします。
7. この**!cd** コマンドにより、次の**mg et** コマンドで受信するファイルを置く、クライアントのローカルのディレクトリーとして“/u/test/invoices”を指定しています。
8. **cd /invoic** コマンドは、メッセージ識別コードが“INVOIC”のものだけを受信又はリスト表示するために指定しています。
9. この**mg et** コマンドは、お客様のメール・ボックスにあるメッセージ識別コードが“INVOIC”の全てのメッセージを受信し、ローカル・ディレクトリーの“/u/test/invoices”にリスト表示されたファイル名でストアします。

### 5. 2. 3 メッセージ・キーを用いた受信の際のFTP応答

お客様がFTPのユーザー・コマンドの `get` 又は `mget` コマンドを入力すると、クライアントはFTPコマンドの `RETR (retrieve)` コマンドをTCP/IP-FTPに対して出します。

お客様が `get` 又は `mget` コマンドの際にメッセージ・キーを指定した場合、“226” 応答のメッセージ・テキストは以下の形式になります。

表5-1. メッセージ・テキストの形式

フィールド	カラム	名前	説明
1	1	MSGNO	メッセージ番号 (“226”)
2	4	予備1	空白
3	5	MSGKEY	メッセージ・キー。IE/EXによってつけられたメッセージ識別子。 一意な16進数表記。
4	25	From	“from” (前空白と後空白があります)
5	31	予備2	空白
6	32	予備3	空白
7	35	予備4	“.” (ピリオド)
8	36	DESTACCT	送信者の顧客コード。この値はDESTUIDと結びついて送信者の識別子となります。 この値が“*SYSTEM*”の時はIE/EXが生成したメッセージです。 形式は英数字、右詰、左は空白で埋めます。
9	44	予備5	“.” (ピリオド)
10	45	DESTUID	送信者のユーザーID。この値はDESTACCTと結びついて送信者の識別子となります。 形式は英数字、左詰め、右は空白で埋めます。
11	53	Class	“class” (前空白と後空白があります)
12	60	MSGUCLS	メッセージ識別子。蓄積されたメッセージを特定するために使用します。 <code>cd</code> コマンドでメール・ボックスのメッセージを選択できます。IE/EXの通信相手と合意の上で、特定のタイプのメッセージに名前をつけて使用します。 形式は英数字、左詰め、右は空白で埋めます。
13	68	OK	“O. K.” (先行空白を含む)

### 5. 2. 4 EDIデータの受信

EDIデータの受信は、「5. 2. 1 単一ファイルの受信」と同じ方法で行ってください。

## 5. 2. 5 ライブラリー・メンバーの取り出し

リスト5-6. ライブラリー・メンバーの取り出し例

項番	F T Pセッションの入力と応答
1	<pre>ftp&gt; cd (libr).IABC.TESTLIB 250 Currently to library IABC.TESTLIB</pre>
2	<pre>ftp&gt; ls 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open ORDER.00 README 226 List for library IABC.TESTLIB transferred 0.K.  ftp&gt; ls -l 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open Access      Owner      Account    Size      Last updated      Name -rw-rw----  IABC001    IABC       1010     98/04/24 07:31:20  ORDER.00 -rw-rw----  IABC001    IABC       2020     98/04/24 07:30:56  README 226 List for library IABC.TESTLIB transferred 0.K.</pre>
3	<pre>ftp&gt; binary 200 Type now set to I.  ftp&gt; get README 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 Library member IABC.TESTLIB.README transferred 0.K. 1010 バイトを 2.178 秒で受信しました (0.4529 キロバイト/秒) ローカル: README リモート: README</pre>

1. ライブラリー “I A B C . T E S T L I B” に対して **c d** コマンドを出します。
2. **l s** コマンドを出すと、T C P / I P - F T P はライブラリー内の全てのメンバーのリストを表示します。  
**l s - l** コマンドを出すと、各メンバーの詳細情報を表示します。
3. **g e t** コマンドを出すことによりメンバー “R E A D M E” が受信されます。

### 5. 3 データ変換

TCP/IP-FTPでは、内部キャラクター表現として8ビット/バイトのASCII、EBCDIC又はIMAGE（連続的なビット列）の1文字コードのセットをサポートしています。

データ変換は、お客様の選択されたデータ・タイプ（`ascii`又は`binary`コマンド）に従います。

（注意）JISCIはサポートしていません。半角カタカナ及び漢字を取り扱う場合は、BINARYで転送して必要に応じてお客様側でデータ変換を実施してください。

#### 5. 3. 1 ファイルの送信時

お客様がASCII文字セットのファイルを送信する場合、データ・タイプにはASCIIを指定してください。データ・タイプのデフォルト値はASCIIです。

データ・タイプをASCIIにして送信すると、レコード・セパレーターはキャリッジ・リターンとライン・フィード（CR/LF）になります。そして、データはASCII文字セットからEBCDIC文字セットに変換されます。

ASCII文字セットからEBCDIC文字セットの変換は、付録「B-1 ASCII to EBCDIC」の変換表に基づいて行われます。

データ・タイプをBINARY（IMAGE）にして送信すると、レコード・セパレーターはつかず、データも変換されません。

#### 5. 3. 2 ファイルの受信時

データ・タイプのデフォルト値はASCIIです。

データ・タイプをASCIIにして受信すると、CDHの`datatype`がEBCDICになっている場合、あるいはCDHが無い場合、データはEBCDIC文字セットからASCII文字セットに変換されます。

EBCDIC文字セットからASCII文字セットの変換は、付録「B-2 EBCDIC to ASCII」の変換表に基づいて行われます。

データ・タイプをBINARY（IMAGE）にして受信すると、データは変換されません。

## 5. 4 PASVサポート

従来は、特定のサーバー間にローカルなネットワークを張りファイル転送を行っていましたが、最近インターネットというオープンなネットワークを利用する性質上、安全性を考慮し、TCP/IP-FTPではパッシブ・モードも使用することができます。

また、パッシブ・モードでは、通常（アクティブ）モードで起こりうる次の現象を回避することができます。

通常モードのFTPセッションでは、制御用接続はクライアント側から、データ用接続はサーバー側（TCP/IP-FTP）から確立します。（図5-1）

このとき、すべてのTCP接続において、図5-1の①方向の packets しか許可しないようなファイアウォールでは、FTPサーバー（TCP/IP-FTP）がデータ用接続を確立するときに、そのセッション（図5-1の③）を許可しないケースが考えられます。

しかも、これらの接続は固定のポート番号を使用するので攻撃されやすく、決して安全とは言えません。

これに対して、パッシブ・モードでは、制御用接続、データ用接続ともにクライアント側から確立するので（図5-2）、上記のように、データ用接続を確立する際にファイアウォールにてセッションが切れるという問題は避けられます。

ただし、全てのクライアントがパッシブ・モードをサポートしているわけではありません。パッシブ・モードをご使用の際には、お使いになるクライアントがパッシブ・モードをサポートしていることを確認してください。

図5-1. 通常モードのFTP接続の概要

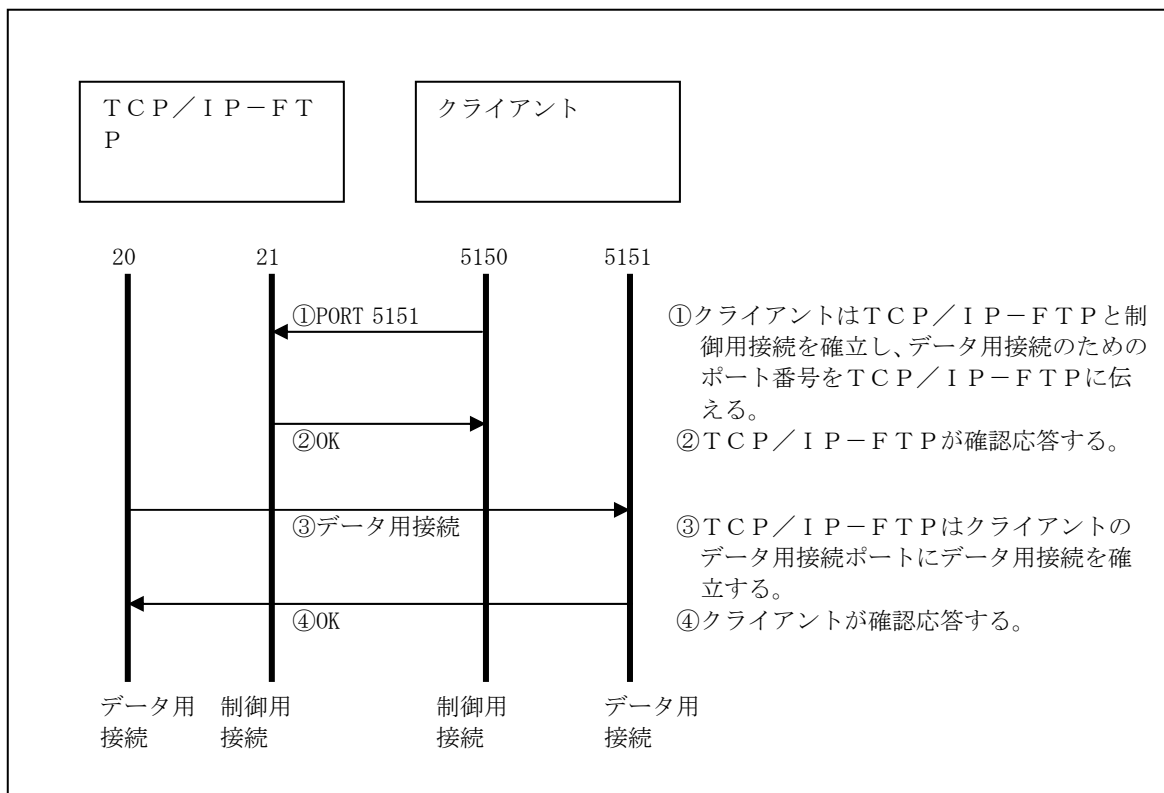
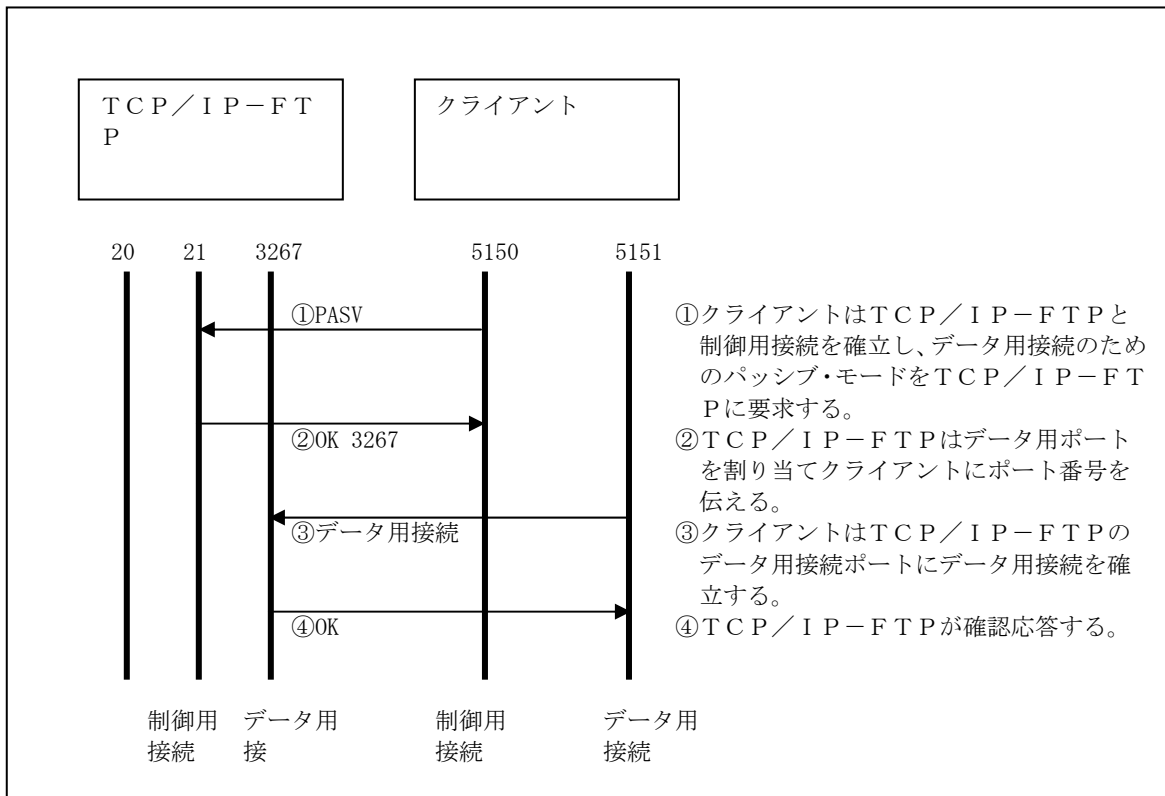


図5-2. パッシブ・モードのFTP接続の概要



## 5. 5 メッセージの削除

`delete filename`

このコマンドにより、お客様のメール・ボックスにあるメッセージを指定して削除できます。  
`filename`は、`ls -l` コマンドで表示されるファイル名（メッセージ・キー）を指定します。

`mdel`

このコマンドにより、お客様のメール・ボックスにある複数のメッセージを削除できます。  
削除できるメッセージは、直前の `cd` コマンドで指定されたものと合致したのだけです。

## 例：メール・ボックスからのメッセージの削除

リスト5-7. メール・ボックスからのメッセージの削除例

項番	F T Pセッションの入力と応答
1	<pre>ftp&gt; ls -l 200 004 Port command OK. 150 001 Data connection ready to open   Filename (MSGKEY)      Sender      Class      Size      Date      Time FFB498FD0B7544BXD2C3._IE  IABC      IABC001  TEST      0000000080 010109 103934 FFB498FD0B7571BDD1C1._IE  IABC      IABC001  TEST      0000000083 010109 103934 226 003 List for user (  ).*.*, class * transferred 0.K.</pre>
2	<pre>ftp&gt; dele FFB498FD0B7571BDD1C1._IE 250 009 Message deleted.</pre>
3	<pre>ftp&gt; ls -l 200 004 Port command OK. 150 001 Data connection ready to open   Filename (MSGKEY)      Sender      Class      Size      Date      Time FFB498FD0B7544BXD2C3._IE  IABC      IABC001  TEST      0000000080 010109 103934 226 003 List for user (  ).*.*, class * transferred 0.K.</pre>

1. `ls -l` コマンドで、事前に `cd` コマンドで指定したメール・ボックス内のメッセージを表示します。
2. メッセージ・キーが “FFB498FD0B7571BDD1C1.\_IE” のメッセージを削除します。
3. `ls -l` コマンドで、メッセージ・キーが “FFB498FD0B7571BDD1C1.\_IE” のメッセージが削除されたことが確認できます。

## 5. 6 EDIデータ

TCP/IP-FTPを通しては、各ファイルは複数エンベロープを含めることができますが、一つのEDIタイプだけです。一つのファイルに複数のEDIタイプを含めることはできません。

データ・タイプをASCIIにして送信すると、ASCIIからEBCDICに変換され、すべてのCR/LFは削除されてメール・ボックスに蓄積されます。CDHは、EBCDIC EDI dataになります。しかし、X.12 BinaryあるいはSecurityセグメントを見つけると、処理を停止します。

ASCII文字セットからEBCDIC文字セットの変換は、付録「B-1 ASCII to EBCDIC」の変換表に基づいて行われます。

データ・タイプをBINARYにして送信すると、バイナリー・データでない場合は、EBCDICに変換され、すべてのCR/LFは削除されてメール・ボックスに蓄積されます。Binaryセグメントは、無変換で蓄積されます。

受信時は、CDHがEBCDIC EDI dataであれば、ASCIIに変換され受信します。

EBCDIC文字セットからASCII文字セットの変換は、付録「B-2 EBCDIC to ASCII」の変換表に基づいて行われます。

X.12 BinaryとSecurityセグメントは変換されません。

EDI処理に関する詳しい情報は『Information Exchange via TCP/IP FTP Gateway User's Guide』を参照してください。

## 5. 7 サポート・ファイル

TCP/IP-FTPの情報がサポート・ファイルに記述されていますので、受信して参照ください。

受信方法は以下の通りです。

1. TCP/IP-FTPとFTPセッションを開始します。
2. `cd support` コマンドを入力します。
3. `ls` コマンドを入力し、どのファイルがあるかを確認します。
4. `get` コマンドでファイルを受信します。  
(例: `get ftpguide.txt`)

## 5. 8 ライブラリー・メンバーの削除

リスト5-8. ライブラリー・メンバーの削除例

項番	F T Pセッションの入力と応答
1	<pre>ftp&gt; cd (libr).IABC.TESTLIB 250 Currently to library IABC.TESTLIB</pre>
2	<pre>ftp&gt; ls 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open ORDER.00 TEMPFILE 226 List for library IABC.TESTLIB transferred 0.K.  ftp&gt; ls -l 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open Access      Owner      Account    Size      Last updated      Name -rw-rw----  IABC001    IABC       1010     98/04/24 07:31:20  ORDER.00 -rw-rw----  IABC001    IABC       3030     98/04/24 07:31:05  TEMPFILE 226 List for library IABC.TESTLIB transferred 0.K.</pre>
3	<pre>ftp&gt; del TEMPFILE 250 Member deleted.  ftp&gt; ls -l 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open Access      Owner      Account    Size      Last updated      Name -rw-rw----  IABC001    IABC       1010     98/04/24 07:31:20  ORDER.00 226 List for library IABC.TESTLIB transferred 0.K.</pre>

1. ライブラリー “I A B C . T E S T L I B” に対して **c d** コマンドを出します。
2. **l s** コマンドを出すと、T C P / I P - F T P はライブラリー内の全てのメンバーのリストを表示します。  
**l s - l** コマンドを出すと、各メンバーの詳細情報を表示します。
3. メンバー “T E M P F I L E” をライブラリーから削除します。

## 5. 9 パススルー処理

### 5. 9. 1 概要

TCP/IP-FTPにIEコマンドをパススルーさせて、直接IE/EXに送ることができます。

以下はコマンド例です。

```
site passthru s sdiinqs 'RESPINQ S1'
```

**s i t e p a s s t h r u**コマンドは次の4つの要素で構成されています。

- ①コマンド (**s i t e p a s s t h r u**)
- ②応答モード ([a | s])
- ③IEコマンド名
- ④IEコマンド本体 (単引用符で囲みます。)

IEからの応答は、同期または非同期で受信できます。但し、コマンドによってIE/EXは応答を戻さない場合があります。

パススルー処理をサポートするコマンドは以下の通りです。

- 1) IE/EXは、次のコマンドに関してはIEの応答を戻します。
  - SDIINQA : ニックネーム照会コマンド
  - SDIARTV : 保管メッセージ取り出しコマンド
  - SDIAUDB : オーディット・ブラウズ・コマンド
  - SDIAUDR : オーディット取り出しコマンド
  - SDILBRW : ブラウズ・ライブラリー・コマンド
  - SDILDEL : ライブラリー定義コマンド
  - SDILDEL : ライブラリー削除コマンド
  - SDITITL : ライブラリー・タイトル・コマンド
  - SDILLST : リスト・ライブラリー・コマンド
  - SDILMBR : リスト・ライブラリー・メンバー・コマンド
  - SDIINQM : メッセージ照会コマンド
  - SDIQUMS : メッセージ蓄積照会コマンド
  - SDILSCH : ライブラリー検索コマンド
  - SDIINQS : セッション照会コマンド
  - SDITRLB : セッション・トレース・ブラウズ・コマンド
  - SDIRCDH : ライブラリー・メンバーCDH取り出しコマンド
  - SDITRLR : セッション・トレース取り出しコマンド
  - SDIPRGM : メッセージ削除 (受信者) コマンド
  - SDILRTV : ライブラリー・メンバー取り出しコマンド
  - SDILDLM : ライブラリー・メンバー削除コマンド

2) 次のコマンドに対して I E / E X はコマンドを受け付けますが、I E / E X は応答を戻しません。

- S D I C N C L : メッセージ取り消しコマンド (送信者)
- S D I D A L S : ニックネーム定義コマンド
- S D I L S T D : リスト定義コマンド
- S D I L S T V : リスト検証コマンド
- S D I L T S T : テスト・メッセージ・ロード・コマンド

3) 次のコマンドに対して I E / E X は処理結果に応じて、I E 応答を戻すことも戻さないこともあります。

- S D I P R O B : 宛先検証コマンド

4) 以下の I E コマンドはパススルーをサポートしません。

- S D I S S T A : セッション開始コマンド
- S D I S E N D : セッション終了コマンド
- S D I S N D M : メッセージ送信コマンド
- S D I R C V M : メッセージ受信コマンド
- S D I C M I T : コミット・コマンド
- S D I P A C E : ペース・コマンド
- S D I C R S P : コミット要求応答
- S D I P R S P : ペース要求応答

## 5. 9. 2 I E コマンドの本体

コマンドに続き I E / E X に送られるテキスト部分です。  
単引用符で囲む必要があります。

T C P / I P - F T P は、I E インターフェース・ガイドに従い、次のようにして I E / E X に送る完全なコマンドを作成します。

- C O M M A N D フィールドは、パススルー・コマンドのコマンド・フィールドになります。
- A C C N T N O、U S E R I D のフィールドは、現在の I E / E X にログインしているものになります。
- S E S S K E Y のフィールドは、現在の I E / E X セッションのものになります。
- コマンドの残り部分は、パススルー・コマンドで指定されたテキスト部分になります。

**s i t e p a s s t h r u** コマンド中の本体のテキストは『I E / E X プロトコル ご利用の手引き』に記述されているものから、C O M M A N D、A C C N T N O、U S E R I D、S E S S K E Y を除いたものです。

### 5. 9. 3 site passthruの応答の受信

#### 1) 同期応答モード

同期モードでは、`site passthru`コマンドに対するIE/EXの応答はFTP応答として戻ります。

`200` : インフォメーション応答としての標準FTP応答コード。  
`rrrrrrrrrr` : IEコマンドで指定した応答名（‘RETRSPEC’フィールド）が示されます。  
‘`tttt...`’ : 応答本体のテキスト。単引用符で囲まれています。

以下は同期のFTP応答例です。

```
200 RESPINQ 'S960621150909960621150090800000100000000000000000000 1'
```

応答の本体は、IE応答のテキストから前についているCOMMAND、ACCNTNO、USERID、SESSKEYを取り外したものです。

#### 2) 非同期応答モード

非同期モードでは、`site passthru`コマンドに対するIE/EXの応答はファイルとして蓄積されます。

以下は非同期のFTP応答例です。

```
200 PASSTHRU command sent, get PASSTHRU.RSP for the response.
```

`get PASSTHRU.RSP`コマンドを出すことにより、IEからの応答が含まれているファイルを受信できます。

(注意) 他の`site passthru`コマンドを出したり、セッションを終了させたりした場合、応答は失われます。

応答ファイルの省略値は、“PASSTHRU.RSP”です。

#### 5. 9. 4 応答無しのコマンド

ある I E コマンド、例えば S D I L S T V のようなものは、I E からの応答は戻りません。(このコマンドの詳細については『I E / E X プロトコル ご利用の手引き』を参照してください。)

応答無しの I E コマンドは、同期モードの時だけ出すことができます。T C P / I P - F T P はコマンドを I E / E X に送った後、次の F T P 応答を戻します。

**200 Passthru command submitted.**

もし、これらのコマンドを非同期モードで送ろうとすると、T C P / I P - F T P はこのコマンドを実行せず、次の F T P 応答を戻します。

**501 That PASSTHRU command has no reply so cannot have Async response set.**

#### 5. 9. 5 エラー応答

I E / E X が I E インターフェース・コマンドの誤りを検出した時は、‘S D I E R R’ で始まるエラー・メッセージを戻します。

この場合、**s i t e p a s s t h r u** コマンドに対応する F T P 応答には、エラー・メッセージが含まれます。

以下は F T P 応答例です。

**501 SDIERR 'THE FOLLOWING COMMAND WAS NOT EXECUTED BECAUSE: 00002...'**

エラー識別子 ‘S D I E R R’ を含む応答には、単引用符で囲まれたエラー・テキストが続きます。

非同期モードでは、エラー・テキストは応答ファイルに入ります。

応答無しの I E コマンドの場合、エラー・メッセージはメール・ボックスに “\* S Y S T E M \* . \* E R R M S G \*” で蓄積されます。

## 5. 10 複合宛先指定の使用

以下は、送信及び受信、リストなどの複合宛先指定の例です。

リスト5-9. 複合宛先指定の例

項番	F T Pセッションの入力と応答
1	<pre>ftp&gt; ls ie::*./orders 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open FFB6C4FF66D00710D1C1._IE FFB6C4FFF77D39C8D1C1._IE 226 List for user ( ).*.*, class ORDERS transferred O.K.  ftp&gt; ls ie::*./orders/-l 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open   Filename (MSGKEY)      Sender      Class      Size      Date      Time FFB6C4FF66D00710D1C1._IE  IABC      IABC001  ORDERS    0000001000 980518 164957 FFB6C4FFF77D39C8D1C1._IE  IABC      IABC002  ORDERS    0000002000 980518 170228 226 List for user ( ).*.*, class ORDERS transferred O.K.</pre>
2	<pre>ftp&gt; prompt off 対話型モード オフ。  ftp&gt; mget ie::*./orders 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 FFB6C4FF66D00710D1C1 from . IABC.IABC001 class ORDERS O.K. 1000 バイトを 1.306 秒で受信しました (0.7475 キロバイト/秒) ローカル: FFB6C4FF66D00710D1C1._IE リモート: FFB6C4FF66D00710D1C1._IE 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 FFB6C4FFF77D39C8D1C1 from . IABC.IABC002 class ORDERS O.K. 2000 バイトを 1.995 秒で受信しました (0.9791 キロバイト/秒) ローカル: FFB6C4FFF77D39C8D1C1._IE リモート: FFB6C4FFF77D39C8D1C1._IE</pre>
3	<pre>ftp&gt; get ie::/IABC.IABC001/invoice /testftp/test/invoice.001 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred from ( ).IABC.IABC001 with class INVOICE. O.K. 3000 バイトを 1.871 秒で受信しました (1.566 キロバイト/秒) ローカル: /testftp/test/invoice.001 リモート: ie::/IABC.IABC001/invoice</pre>
4	<pre>ftp&gt; put /testftp/test/invoice.005 ie::/IABC.IABC001/invoice 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred to ( ).IABC.IABC001 with class INVOICE. O.K. 4040 バイトを 0.001087 秒で送信しました (3630 キロバイト/秒) ローカル: /testftp/test/invoice.005 リモート: ie::/IABC.IABC001/invoice</pre>

5	<pre>ftp&gt; get ie::*.* /testftp/test/File.001 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred from ( ).IABC.IABC001 with class @STATUS O.K. 5000 バイトを 2.515 秒で受信しました (1.942 キロバイト/秒) ローカル: /testftp/test/File.001 リモート: ie::*.*</pre>
6	<pre>ftp&gt; put /testftp/test/newsletter ie:/(list).supplier/news 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred to (LIST).SUPPLIER. with class NEWS. O.K. 6060 バイトを 0.001266 秒で送信しました (4675 キロバイト/秒) ローカル: /testftp/test/newsletter リモート: ie:/(list).supplier/news</pre>
7	<pre>ftp&gt; put /testftp/test/testedi3 ie:/edi 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226-EDI processing started. 00 X 0000001 002262 IABC .IABC001 #E2 000022223 Sent O.K. 00 X 0002263 002262 IABC .IABC002 #E2 000022223 Sent O.K. 00 X 0004525 002262 IABC .IABC003 #E2 000022223 Sent O.K. 226 0 S00003 E00000 EDI processing complete. 6961 bytes sent in 0.01 seconds (696.10 Kbytes/sec)</pre>
8	<pre>ftp&gt; bin 200 Type now set to I.  ftp&gt; put /testftp/test/DOWNLOAD ie:/(libr).iabc.testlib/DOWNLOAD 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred to (LIBR).IABC.TESTLIB with class . O.K. 8000 バイトを 0.000861 秒で送信しました (9074 キロバイト/秒) ローカル: /testftp/test/DOWNLOAD リモート: ie:/(libr).iabc.testlib/DOWNLOAD  ftp&gt; ls ie:/(libr).iabc.testlib 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open DOWNLOAD 226 List for library IABC.TESTLIB transferred O.K.</pre>

1. 複合宛先 “`ie::/*.*/orders`” で `ls` コマンドを出します。これはお客様宛の全ての差出者からのメッセージ識別コードが “ORDERS” のものをリストします。

複合宛先 “`ie::/*.*/orders/l`” の `ls` コマンドでは、上記のリストを長形式で出力します。

(注意) 複合宛先ではスペースを空けないください。“`l`” は、“`ie::/*.*/o`  
`rders`” の後にスペースを空けずに指定します。

2. `mget ie::/*.*/orders/` コマンドは、お客様宛の全ての差出者からのメッセージ識別コードが “ORDERS” のものを受信します。
3. `get ie::/IABC.IABC001/invoice /testftp/test/invoice.001` コマンドは、差出者が “IABC.IABC001” で、メッセージ識別コードが “INVOICE” のメッセージを受信し、ローカルの “/testftp/test/invoice.001” に保管します。
4. `put /testftp/test/invoice.005 ie::/IABC.IABC001/invoice` コマンドは、ローカル・ファイルの “/testftp/test/invoice.005” を “IABC.IABC001” 宛にメッセージ識別コードを “INVOICE” で送ります。
5. `get ie::/*.*/* /testftp/test/File.001` コマンドは、お客様宛の全てのメッセージのうち、最初のメッセージだけを受信し、ローカル・ファイルの “/testftp/test/File.001” に保管します。
6. これはローカル・ファイルの “/testftp/test/newsletter” をデリバリー・リスト “`supplier`” に送ります。
7. `put /testftp/test/testedi3 ie::/edi` コマンドで EDI ファイルであるローカル・ファイルの “/testftp/test/testedi3” を IE/EX に送ります。
8. ライブラリー “IABC.TESTLIB” に新しいメンバー “DOWNLOAD” を送ります。`ls` コマンドは複合宛先でライブラリーを照会しています。メンバー “DOWNLOAD” が追加されていることがわかります。

## 6 s i t e コマンドの使用方法

お客様は、**s i t e** コマンドを入力して I E / E X に関する処理オプションを表示したり変更したりすることができます。

ある一部の **s i t e** コマンドは、その関連する機能を有効にするか、無効にするかの指定の為にパラメーターを必要とします。1 が機能を有効にする指定です。0 が機能を無効にする指定です。下線がついているものはデフォルトの値です。

お客様の F T P クライアントが、**s i t e** コマンドの複数パラメーターをサポートしていないとき、以下の代替方法が使える場合があります。

- 1) **q u o t e** コマンドを使用する。

```
quote site getaudit 010104-010109 local all recv
```

- 2) **s i t e** コマンドの本体を二重引用符で囲む。

```
site "quote site getaudit 010104-010109 local all recv"
```

### 6. 1 F T P セッション制御のための **S i t e** コマンド

#### 6. 1. 1 **s i t e i d l e**

このコマンドを入力すると、T C P / I P - F T P は F T P の制御用接続に対するアイドル・タイムアウトの値を返します。単位は秒です。アイドル・タイムアウトは、F T P の制御用接続がまったく使われない状態でいられる最大時間です。この時間を超えると、T C P / I P - F T P は自動的に I E / E X のセッションを終了させるとともに、F T P の制御用接続を終了させます。

## 6. 1. 2 site system

site system [Q/*n*]

このコマンドは、お客様のシステム・タイプを入力します。システム・タイプの違いは、以下の表をご覧ください。通常は、特に指定せずにご使用できます。

「4 メッセージの表示」の項もあわせて参照してください。

表6-1. システム・タイプの種類

システム・タイプ	説明
0	デフォルトの値です。LIST又はNLSTコマンドの応答よりメッセージのファイル名を作成しますが、そのファイル名は長いファイル名で“msgkey. _IE”の形式になります。
1, 2	未使用
3	LIST又はNLSTコマンドの応答よりメッセージのファイル名を作成しますが、そのファイル名は短いファイル名で“nnnnnnnn. _IE”の形式になります。
4	LIST又はNLSTコマンドの応答よりメッセージのファイル名を作成しますが、そのファイル名は長いファイル名で“msgkey. IE”の形式になります。 拡張子が“_IE”ではなく、“IE”となります。

(注) LIST、NLSTコマンドは、付録「A-2 FTPコマンド」を参照してください。  
FTPユーザー・コマンドのls -l、lsコマンドに対応します。

## 6. 1. 3 site liststyle

site liststyle [long/*short*/*filename*]

ls -lコマンドの応答の形式を指定します。

「4 メッセージの表示」の項もあわせて参照してください。

デフォルトの値はlongです。

## 6. 1. 4 site resp226

`site resp226 [normal / filename]`

メッセージを受信した時の“226”応答の形式を指定します。  
デフォルトの値はnormalです。

`site resp226` コマンドで `filename` を指定すると、メッセージを受信した時に複数行の“226”応答が戻ります。

2行目には、オリジナル・ファイル名を含んだ応答が戻ります。  
以下は、短いファイル名による例です。

### ①メール・ボックスのファイル名による時

IE/EXのメッセージ情報にオリジナル名が含まれている場合の出力例は以下の通りです。

```
226-          00000003 from      .      IABC.IABC001 class  ORDERS O.K.
226          00000003._IE  invoice.001
```

IE/EXのメッセージ情報にオリジナル名が含まれていない場合の出力例は以下の通りです。

```
226-          00000003 from      .      IABC.IABC001 class  ORDERS O.K.
226          00000003._IE  00000003._IE
```

### ②ローカルのファイル名による時

IE/EXのメッセージ情報にオリジナル名が含まれている場合の出力例は以下の通りです。

```
226-File transferred from (      ).IABC.IABC001 with class ORDERS. O.K.
226 Original name was order.001
```

IE/EXのメッセージ情報にオリジナル名が含まれていない場合の出力例は以下の通りです。

```
226-File transferred from (      ).IABC.IABC001 with class ORDERS. O.K.
226 There was no original filename for this file.
```

## 6. 2 I E / E Xセッション制御のための S i t e コマンド

### 6. 2. 1 s i t e c o n f i r m

s i t e c o n f i r m [ 1 / 0 ]

このコマンドは、次に続くコマンドで I E / E X にファイルをコミットする機能を有効にするか、無効にするかを指定します。1 が有効、0 が無効です。

s i t e c o n f i r m コマンドをパラメーターなしで入力すると、現在設定されている値が表示されます。

この機能を有効な状態しておく、F T P の制御用接続で次に続く F T P コマンドを T C P / I P - F T P が受け取った時、T C P / I P - F T P は I E / E X にファイルをコミットするように要求します。

もし、ファイル転送後に F T P の制御用接続から何らかの追加のコマンドが T C P / I P - F T P に来ない場合、T C P / I P - F T P はお客様とのセッションが失われたと判断して I E / E X にファイルのコミットを要求しません。

従って、もしお客様がファイル転送を開始した後、セッションがタイムアウトになった場合、ファイル転送は失敗になります。

ファイルのコミットを要求するには、**NOOP** コマンドを用いることができます。**NOOP** コマンドを入力した場合、以下の応答が戻ります。他のコマンドを入力した場合、この応答は戻りません。

**200 File now committed in Information Exchange.**

この機能を無効な状態にしておく、T C P / I P - F T P はクライアントに “226” 応答を返した後 I E / E X に対してファイルのコミットを要求します。

又、F T P プロトコルの技術的な制限により、以下のようなことが発生します。

- ①部分メッセージの送信（ファイルを送り終わる前にセッションが中断した場合）
- ②メッセージの一部の受信とそのメッセージのメール・ボックスからの削除（受信中にセッションが中断した場合）

もし、お客様のセッションがタイムアウトになると、ファイル転送中のものは I E / E X にコミットされてしまいます。

I E / E X へのファイルのコミットは非常に重要な事項ですので、一部重複しますが「7. 4 メッセージのコミットについて」の項もあわせて参照してください。

## 6. 2. 2 site probe

site probe [1 / 0]

このコマンドは、**cd**、**put**又は**mpu**tコマンドを出したときに検証機能を有効にするか、無効にするかを指定します。1が有効、0が無効です。

**site probe**コマンドをパラメーターなしで入力すると、現在設定されている値が表示されます。

設定の効果は、お客様のセッションが終了するか、新しいユーザーIDでログインするか又は他の**site probe**コマンドを入力するまで持続します。

検証機能が設定されると、以下のコマンドの時に機能します。

1. **cd**コマンドの実行時、次のことを検証します。
  - ①存在しない顧客コード/ユーザーID
  - ②存在しないデリバリー・リスト
2. **put**、**mpu**tコマンドの実行時、次の場合はデータを送信しません。
  - ①存在しない顧客コード/ユーザーID
  - ②存在しないデリバリー・リスト
  - ③送信相手との料金負担区分の不一致

(注意) この設定は内包宛先の時には機能しません。

## 6. 2. 3 site sesskey

このコマンドの応答としてTCP/IP-FTPは、現在のIE/EXセッションのセッション参照キーを戻します。

## 6. 3 メッセージ制御のためのSiteコマンド

### 6. 3. 1 site msgrcpts

EX形式状況確認メッセージ (@status) に対する指定を行います。  
デフォルトの値は、nでEX形式状況確認メッセージを作成しません。  
EX形式状況確認メッセージを作成するためには、bを指定してください。  
EX形式状況確認メッセージについては『<IE/EX> 概説書』を参照してください。

### 6. 3. 2 site msgname [name]

IE/EXに送るメッセージに名前をつけることができます。  
nameは8桁以内の英数字です。デフォルトの値はblankです。

### 6. 3. 3 site msgseqn [sequence]

IE/EXに送るメッセージに番号をつけることができます。  
sequenceは5桁以内の英数字です。デフォルトの値はblankです。

## 6. 4 IE/EX機能のためのSiteコマンド

### 6. 4. 1 site arcrefid

```
site arcrefid [*today*/*session*/  
archivename]
```

このコマンドは、お客様がメール・ボックスからメッセージを受信するときにIE/EXの保管機能を使用することを指定します。受信したメッセージはIE/EXのお客様のユーザー・プロフィールで指定された期間（保管日数）保管されます。

この保管日数に0（ゼロ）が指定されていた場合、メッセージは保管されません。

お客様は一意な保管参照キーをつけることにより、いくつかの異なった保管を持つことができます。もし、お客様が既に存在している保管参照キーを指定すると、受信したメッセージはその保管に追加されます。新しい保管参照キーを指定すると、次に受信したメッセージから新しい保管に入れられます。

保管参照キーの指定の有効性は、お客様のセッションが終了するか、新しいユーザーIDでログインするか又は他のsite arcrefidコマンドを入力するまで持続します。

保管参照キーの指定は以下の通りです。

表6-2. 保管参照キーの種類と機能

パラメーター	機能
<i>*today*</i>	このコマンドを出した後、受信すると保管参照キーは現在の日付になります。形式はARyy mmd dです。 (例) 200 ARCREFID set to [AR010109].
<i>*session*</i>	このコマンドを出した後、受信すると保管参照キーとして8桁の英数字からなる現在のIE/EXのセッション参照キーが使われます。 (例) 200 ARCREFID set to [TEBJNQZC].
<i>archivename</i>	お客様で8桁の英数字からなる名前を指定できます。 (例) 200 ARCREFID set to [TCPIPFTP].

保管取り出しをする場合は、お客様のユーザー・プロフィールで保管を“Y”にし、0よりも大きい保管日数を指定してください。保管日数の指定についてはIE/EXのヘルプ・デスクにご相談ください。

### 6. 4. 2 site getarchive arcrefid

以下のコマンドで保管されたメッセージの取り出しができます。

```
site getarchive arcrefid
```

arcrefidには、保管参照キーを指定してください。保管取り出しされたメッセージは、お客様のメール・ボックスに蓄積されますので通常のメッセージの受信と同じ方法で受信できます。

### 6. 4. 3 site getaudit

IE/EXからオーディット・トレールの取り出し要求ができます。取り出された結果は、差出者が“\*SYSTEM\*. \*AUDITS\*”で、メッセージ識別コードが“#SAUDIT”で要求者のメール・ボックスに蓄積されます。

オーディット・トレールは、メッセージ処理状況に関するレコードです。詳しくは『<IE/EX> 概説書』を参照してください。オーディット・レコードのフォーマットについては、付録「C オーディット・レコード・フォーマット」を参照してください。

以下は、オーディット・トレールを取り出すコマンドについての説明です。

```
site getaudit [[datefrom] - [dateto]]
               [send/recv/both] [local/gmt]
               [all/undelivered/delivered/purge]
```

表6-3. site getauditコマンドのパラメーター

パラメーター	機能
<i>datefrom - dateto</i>	<p>オーディットの範囲を日付で指定します。</p> <p><i>datefrom</i> : 'datefrom'からのメッセージのオーディットを取り出します。 デフォルトの値は1950/01/01です。</p> <p><i>datefrom-dateto</i> : 'datefrom'から'dateto'までのメッセージのオーディットを取り出します。</p> <p><i>-dateto</i> : 'dateto'までのメッセージのオーディットを取り出します。 (注意) 範囲を表すため'-'が必要です。 日付の指定方法は以下のようになります。</p> <p>YYMMDD (例) 010109 YYYYMMDD (例) 20010109 CYYMMDD (例) 1010109 C = '0' : 19YY C = '1' : 20YY</p>
<i>send   recv   both</i>	<p><i>send</i> : 送信したメッセージのオーディットを指定します。</p> <p><i>recv</i> : お客様のメール・ボックスに蓄積されているメッセージ、即ち既に受信したメッセージ又は受信前に削除したメッセージのオーディットを指定します。</p> <p><i>both</i> : 'send'と'recv'の両方のオーディットを指定します。</p>
<i>local   gmt</i>	<p><i>local</i> : 'datefrom-dateto'に指定する日付がlocal time zone.</p> <p><i>gmt</i> : 'datefrom-dateto'に指定する日付がGreenwich Mean Time.</p>
<i>all   undelivered   delivered   purged</i>	<p>メッセージ状態の指定</p> <p><i>all</i> : 全ての状態 (デフォルト値)</p> <p><i>undelivered</i> : 未受信状態</p> <p><i>delivered</i> : 受信状態</p> <p><i>purged</i> : 受信前に削除された状態</p>

(注) **site getaudit**コマンドでパラメーターの指定がない時は、以下のパラメーターがデフォルトの値となります。

19500101-20991231 both local all

## 6. 5 site passthru

以下は、`site passthru`コマンドを使用してIEのネイティブ・コマンドを出す例です。

### 例：site passthru処理

リスト6-1. site passthru処理の例

項番	FTPセッションの入力と応答
1	<pre>ftp&gt; quote site passthru s sdiinqm 'RSPINQM 1' 200 RSPINQM '980424160807000003980424151024000000000000000000000030000011'</pre>
2	<pre>ftp&gt; quote site passthru a sdiinqm 'RSPINQM 1' 200 PASSTHRU command sent: get PASSTHRU.RSP for the response.  ftp&gt; get PASSTHRU.RSP 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 Passthru response transferred O.K. 93 bytes received in 0.001118 seconds (81.23 Kbytes/s) local: passthru.rsp remote: passthru.rsp</pre>
3	<pre>ftp&gt; quote site passthru s sdilstv 'TESTLST S 1' 200 Passthru command submitted.</pre>

1. 最初のパススルー・コマンドを分解すると次のようになります。

**s** : これは同期応答を戻すことを指定します。  
**s d i i n q m** : S D I I N Q M (IEのメッセージ照会コマンド) です。  
**' R S P I N Q M 1 '** : S D I U N Q Mコマンドに必要なIEコマンドの本体です。  
 このコマンドの場合は、応答名 (R S P I N Q M) とレベル (1) だけです。  
 このテキストにコマンド名、現在の顧客コード、ユーザーID、セッション参照キーが付加されて完全なIEコマンドになります。

このコマンドが同期モードで出されると、TCP/IP-FTPはIE/EXからの応答をFTP応答に含んで戻します。これを分解すると次のようになります。

**R S P I N Q M** : `site passthru`コマンド本体で指定した応答名です。

**' 9 8 0 4 2 4 . . . '** : これはIE/EXからの応答の本体です。  
 但し、これにはCOMMAND、ACCTNO、USERID、SESSKEYが除かれています。この応答については『IE/EXプロトコル ご利用の手引き』を参照してください。

2. 同じ `site passthru` コマンドが非同期モードで出ています。  
このコマンドの FTP 応答には、パススルー・コマンドの応答を受信するためのファイル名が返ります。  
この例では、省略値のファイル名 “PASSTHRU. RSP” です。
3. 最後に `site passthru` コマンドで SDILSTV (IE コマンド) を出しています。この特殊なコマンドは IE/EX からの応答を返しません。  
FTP 応答は、このコマンドが IE/EX に送られたことのみを示します。

## 7 その他

### 7. 1 内包宛先処理

内包宛先を使用する時には、以下の `cd` コマンドを用いてください。

```
cd I E E X . I E E X E M B / m s g u c l s
```

`msgicls` に指定したメッセージ識別コードは I E / E X に登録が必要です。この登録（メッセージ処理の登録）により使用する内包処理の形式を指定します。別名を用いるときは、事前に別名の登録も必要になります。内包処理については『< I E / E X > 概説書』を参照してください。登録については I E / E X のヘルプ・デスクにご相談ください。

内包データは `put` コマンドを用いて送信します。内包データには、宛先を指定するヘッダーが必須です。このヘッダーは、基本的に I E / E X で処理をする時に E B C D I C 文字セットである必要があります。

内包データ（ヘッダーやデータ）を A S C I I 文字セットから E B C D I C 文字セットに変換してメール・ボックスに蓄積したいのであれば、ヘッダーやデータを A S C I I 文字セットで作成し、データ・タイプを指定せず（データ・タイプのデフォルト値は A S C I I です）送信してください。

一方、A S C I I 文字セットのままメール・ボックスに蓄積したいのであれば、次の二つの方法があります。

- ①データ・タイプを B I N A R Y で送信する。但し、ヘッダー部分は E B C D I C 文字セットで作成する必要があります。
- ②内包処理の形式で “U 4” を使用する。事前に別名の登録及びユーザー形式定義の登録でヘキサにてヘッダー識別の登録をしておく必要があります。

(注意) ヘッダーに指定した宛先の存在については、`site probe` コマンドでは検証できません。宛先の存在エラー、料金負担区分の矛盾のエラーがあっても T C P / I P - F T P は、正常に送信を終了します。送信が成功しても蓄積がされない時は、これらのエラーの可能性が高いので E X 形式状況確認メッセージを受信することにより確認してください。



## 7. 2 EX形式状況確認メッセージ

EX形式状況確認メッセージ (@status) には、半角カタカナが含まれます。TCP/IP-FTPから受信する場合、データ・タイプをBINARYにて受信し、お客様が変換する必要があります。

EX形式状況確認メッセージは、半角カタカナの処理が可能な端末で受信することをお勧めします。

EX形式状況確認メッセージの生成のためには、以下のsiteコマンドを指定してください。

```
site msgrcpts b
```

EX形式状況確認メッセージについては『<IE/EX> 概説書』を参照してください。

## 7. 3 クライアント・アプリケーション

TCP/IP-FTPのクライアントを作成するには次の三つの方法があります。

- 1) 対話形式でコマンドを打つ方法  
デモなどの使用頻度が少ないお客様に適しています。  
この場合、お客様側で問題が起きないように手順書を作りTCP/IP-FTPを使用してください。  
このサンプルとしては、付録「D 対話形式のセッション例」を参考にしてください。
- 2) スクリプトを使う方法  
早く簡単にTCP/IP-FTPを使用するのに適しています。  
ただし、FTPコマンド列をバッチ的に実行する為に異常が起きた時は、FTPコマンドと応答を詳細に調べる必要があります。
- 3) FTPクライアント・プログラムを作成する方法  
TCP/IPの通信プログラムを作成するので難しい方法です。  
この方法を採用される場合は、付録「A-2 FTPコマンド」を参照して、TCP/IP-FTPがサポートしているコマンドをよく理解するとともにRFC959の規定事項を熟読されることをお勧めします。

## 7. 4 メッセージのコミットについて

IE/EXは、ファイル単位でメッセージのコミットをします。モデム、回線等の障害により、データ送信時に中途半端なデータの蓄積が発生したり、データ受信時に極めて希ですが、データ・ロストが発生したりする場合があります。  
このような問題を回避するために、以下のsiteコマンドを提供しています。

```
site confirm 1
```

confirm 1を指定することをお勧めします。デフォルトの値は、confirm 0ですので明示的に指定する必要があります。

### ① `site confirm 1` を使用した場合

“226” 応答を受信後、クライアントから次に続くFTPコマンドあるいはNOOPコマンドを入力しない限り、メッセージはIE/EXにコミットされません。“226” 応答を確認後、FTPコマンド (`put`、`get`、`bye`等のコマンド) あるいはNOOPコマンドを入力し、メッセージをコミットしてください。障害により“226” 応答を受信できなかった場合は、メッセージはコミットされません。FTPプログラムを終了した上で、再送してください。

NOOPコマンドを入力した場合、以下の応答が戻ります。他のコマンドを入力した場合、この応答は戻りません。

```
200 File now committed in Information Exchange.
```

### ② `site confirm 0` (デフォルト値) を使用した場合

データ送信時にTCP/IP-FTPが検知できない障害でデータ転送が停止した場合、TCP/IP-FTPは、データの終わりと判断して“226” 応答をクライアントに送信します。その後、メッセージをコミットしてしまうため、中途半端なメッセージの蓄積となります。データ受信時に極めて希ですが、データ・ロストが起こる可能性があります。

`site` コマンドが使用できないクライアント・ソフトは、以下のメッセージを確認した上で、データ転送の完了としてください。

```
226 File transferred from (to) . . .
```

この“226” 応答のメッセージを表示できないクライアント・ソフトはご使用にならないでください。

`site` コマンドを使用できないクライアント・ソフトはお勧めできません。使用する場合は、自動運用には不適當です。

また、データ・ロストに対応できるようにユーザー・プロファイルで保管日数を指定することをお勧めします。

## 7. 5 障害時の対応

FTPのセッションが中断した場合 (`confirm 1`が前提) は、再送してください。

また、無応答状態になった場合は、タイムアウトを待つようにしてください。FTPの制御用接続が切断されてからFTPプログラムを終了した上で、再送してください。

タイムアウトを待たずにFTPコマンド (`bye`等のコマンド) を入力したり、あるいは強制終了したりすると、クライアントによってはメッセージをコミットしてしまう意味合いのコマンドをTCP/IP-FTPに送信してしまい、二重蓄積やデータ・ロストの原因となります。

## 7. 6 その他の考慮点

### 1) F T Pセッションの正常終了

I E / E Xとのデータ交換後は、**b y e** (又は**q u i t**) コマンド等のクライアントがサポートしている終了コマンドを必ず出して終了するようにしてください。終了コマンドを出さないと I E / E Xとのセッションが終了しません。このため、問い合わせにより I E / E Xのヘルプ・デスクがセッションの照会を行っても、セッションの終了状況が表示されませんので異常と判断される場合があります。

### 2) W A Nなどでの高速接続について

W A Nなどで高速回線を使用した場合は、単一のユーザー I Dでのデータ交換で回線の速度を十分に生かせないことがあります。この場合、複数ユーザー I Dを使用して T o t a lでの回線効率を上げる等の工夫を考慮してください。

## A サポートしているFTPコマンド

ここでは、TCP/IP-FTPがサポートしているユーザー・コマンドについて述べます。又、RFC 959で規定されているFTPコマンドについても述べます。これらのコマンドの正確な書式は、お客様の導入しているFTPのユーザー・インターフェースにより異なりますのでご注意ください。

もし、お客様がサポートされていないFTPコマンドを使用した場合、TCP/IP-FTPは以下の応答を返します。

**502 Command not implemented.**

### A-1 FTPユーザー・コマンド

ここでは、TCP/IP-FTPがサポートしているユーザー・コマンドについて述べます。以下は、標準的なクライアントのコマンド例です。

- **a s c i i**  
データ・タイプをASCIIに設定します。
- **b i n a r y**  
データ・タイプをBINARYに設定します。  
(FTPクライアントによっては、このコマンドが**i m a g e**コマンドの場合もあります。)
- **b y e**  
お客様のIE/EXとのセッションを終了します。
- **c d [destination] [/class]**  
*c l a s s* (メッセージ識別コード) とともに用います。データ交換したい相手の指定又は特定の受信をしたい相手を指定するのに使用します。詳細については「3 cdコマンドの使用法」を参照してください。
- **d e l e f i l e n a m e**  
指定されたメッセージをメール・ボックスから削除します。  
*f i l e n a m e*は、**l s -l** コマンドを使用して表示させたファイル名です。
- **g e t f i l e n a m e**  
直前に指定された**c d**コマンドにより、指定された範囲で最初に合致した(原則は蓄積順)単一のメッセージをメール・ボックスから受信します。
- **l s [-1]**  
直前に指定された**c d**コマンドにより、指定された範囲の全てのメッセージをメール・ボックスからリスト表示します。

- **m d e l e**  
直前に指定された **c d** コマンドにより、指定された範囲の全てのメッセージをメール・ボックスから削除します。
- **m g e t**  
直前に指定された **c d** コマンドにより、指定された範囲の全てのメッセージをメール・ボックスから受信します。
- **m o d e S**  
転送モードを S に設定します。デフォルトの値は、S でストリーム・モードです。これはデータをバイト・ストリームで転送します。  
TCP/IP-FTP では、ブロック・モードと圧縮モードはサポートしません。
- **m p u t *filespec***  
TCP/IP-FTP を通して IE/EX に一連のファイルを送信します。
- **o p e n x . x . x . x**  
TCP/IP-FTP とのセッションを開始します。  
x . x . x . x は、お客様が接続しようとしている TCP/IP-FTP の IP アドレスです。（x . x . x . x については IE/EX のヘルプ・デスクにご確認ください。）
- **p a s s *password* [/newpass]**  
お客様のパスワードを変更します。
- **p u t *filename***  
TCP/IP-FTP を通して IE/EX に単一のファイルを送信します。
- **r e m o t e h e l p**  
TCP/IP-FTP に簡単なヘルプを要求します。
- **s i t e *option***  
セッションに対する特有な値を表示したり変更したりするのに使用します。  
詳細については「6 **s i t e** コマンドの使用方法」を参照してください。
- **s t r u F**  
データ構造を F に設定します。デフォルトの値は、F でファイル構造をあらわします。これは内部構造ではなく、ファイルは連続したデータバイト列とみなされます。  
TCP/IP-FTP では、レコード構造とページ構造はサポートしません。
- **u s e r *account.userid* [*password* [/newpass]]**  
IE/EX にログインします。  
このコマンドをセッション中に入力した場合は、現在の IE/EX のセッションは終了し、新しいセッションが開始されます。  
(注意) ユーザー ID と同じパスワードは使用できません。  
パスワードに「/」(スラッシュ) は使用できません。

## A-2 FTPコマンド

ここでは、RFC 959で規定されているFTPコマンドについて述べます。  
 必須という項目は、RFC 959に従いサポートされなければならないコマンドを示します。  
 サポートという項目は、TCP/IP-FTPがサポートしているものを示します。  
 各々の「○」が該当しているものです。

表A-1. RFC 959で規定されているFTPコマンドとTCP/IP-FTPがサポートするコマンドの対応表

コマンド	機能	必須	サポート
ABOR	サーバーに対して現在のデータ転送を止めさせ、データ接続を終了させます。		○ (注6)
ACCT	ユーザーのアカウントを指定します。		(注1)
ALLO	サーバーに対して受信ファイルの為にファイル・システムに格納するスペース量を指定します。		○ (注3)
APPE	サーバーに対してクライアントからのファイルを受信する際、もし同じファイルが存在していれば、そのファイルに追加します。		(注1)
CDUP	ファイル・システムのディレクトリーのレベルをひとつあげます。		(注1)
CWD	ファイル・システムのディレクトリーを変更します。		○
DELE	指定されたファイルを削除します。		
HELP	クライアントがサーバーからヘルプ情報を要求します。		○
LIST	ディレクトリーの内容を表示します。		○ (注4)
MKD	指定されたディレクトリーを作成します。		(注1)
MODE	ファイル・モードを指定します。有効なのはS、BとCです。 (S:ストリーム・モード、B:ブロック・モード、C:圧縮モード)	○	○ (注2)
NLST	ディレクトリーの内容を表示します。		○ (注5)
NOOP	サーバーがOK応答を返す以外は何の動作も行わない。	○	○
PASS	顧客コード/ユーザーIDに対するパスワードを与えます。	○	○
PASV	次のデータ転送の際、あたかもクライアントのように振舞うことをサーバーに要求します。即ち、サーバー側からデータ用接続を行うのではなく、このコマンドの応答に含まれるホスト・アドレスとポート番号でサーバーがデータ用接続を待ち受けるようにします。これにより二つのリモート・サーバー間でデータ転送ができます。		○
PORT	データ転送のためのデータ・ポートの番号を指定します。	○	○
PWD	クライアントの現在のディレクトリーを表示します。		○
QUIT	ユーザーを終了させ、制御用接続を終了します。	○	○
REIN	ユーザーを終了させ、全てのパラメーターをデフォルトの値に戻すが制御用接続は存続させます。		
REST	ファイルを指定されたデータのチェック・ポイントにスキップさせます。		
RETR	クライアントがファイルを受信することをサーバーに要求します。	○	○
RMD	指定されたディレクトリーを削除します。		(注1)
RNFR	ファイル名を変更するとき、元の名前を指定します。		(注1)
RNTO	ファイル名を変更するとき、新しい名前を指定します。		(注1)
SITE	サーバーのシステムに特有なパラメーターを設定します。		○
SMNT	ユーザーに異なったファイル・システムのデータ構造のマウントを許します。		(注1)
STAT	クライアントにサーバーの状態情報を要求することを許します。		

<b>STOR</b>	クライアントからファイルを送信することをサーバーに要求します。	○	○
<b>STOU</b>	クライアントからファイルを送信することをサーバーに要求します。 ファイルはディレクトリーに一意的な名前で生成されます。		(注1)
<b>STRU</b>	ファイル構造を指定します。有効なのはF、RとPです。 (F：ファイル構造、R：レコード構造、P：ページ構造)	○	○ (注2)
<b>SYST</b>	サーバーのオペレーティング・システムの種類を知るために要求します。		
<b>TYPE</b>	ファイル・タイプを指定します。有効なのはA、E、IとLです。 (A：ASCII形式、E：EBCDIC形式、I：イメージ形式、L：ローカル形式)	○	○ (注2)
<b>USER</b>	ユーザーIDを指定するために使用します。	○	○

(注1) IE/EXの機能に対応するものがないのでサポートされません。

(注2) RFC959で記述されているコマンドのパラメーターの全ての値が、TCP/IP-FTPによりサポートされるわけではありません。

TCP/IP-FTPでサポートしているのは、ファイル・モードではS(ストリーム・モード)、ファイル構造ではF(ファイル構造)、ファイル・タイプではA(ASCII形式)とI(イメージ形式)です。

(注3) このコマンドはRFC959でも規定されているように、あたかもNOOPコマンドとして取り扱われます。

(注4) このコマンドは、NLST -Lコマンドとして取り扱われます。

(注5) このコマンドは、mgmtコマンドにメール・ボックスの一覧を提供します。

(注6) ABORコマンドは、制御用接続を終了させます。

### A-3 FTPコマンドとクライアントFTPコマンド

以下の表は、標準的なクライアント（例えばUNIX）のコマンドとFTPコマンド（RFC 959による）の対比を示しています。

表A-2. 標準的なクライアントのコマンドとFTPコマンドの対応表

クライアントのコマンド	FTPコマンド (RFC 959による)
a s c i i	T Y P E A
b i n	T Y P E I
b y e	Q U I T
c d	C W D
d e l	D E L E
g e t	P O R T と R E T R
l s	P O R T と N L S T
p a s s	P A S S
p u t	P O R T と S T O R
u s e r	U S E R
p w d	P W D

## B 変換テーブル

### B-1 ASCII to EBCDIC

表の見方は次の通りです。

行の左端はASCII文字を16進数にした時の上の桁を、列の上段は下の桁をあらわします。  
例えば、ASCII文字の‘1’は16進数にするとX‘31’です。この場合、行の‘3-’  
と列の‘-1’の交点がEBCDIC文字に変換された16進数のX‘F1’すなわちEBCDIC文字の‘1’になります。

表B-1. 文字コード変換表 (ASCII⇒EBCDIC)

	-0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-A	-B	-C	-D	-E	-F
0-	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F
1-	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	1E	1F
2-	40	5A	7F	7B	5B	6C	50	7D	4D	5D	5C	4E	6B	60	4B	61
3-	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	7A	5E	4C	7E	6E	6F
4-	7C	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	D1	D2	D3	D4	D5	D6
5-	D7	D8	D9	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	AD	E0	BD	5F	6D
6-	79	81	82	83	84	85	86	87	88	89	91	92	93	94	95	96
7-	97	98	99	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	C0	4F	D0	A1	2F
8-	20	21	22	23	24	3D	2E	26	28	29	2A	2B	2C	2D	25	27
9-	30	31	3F	33	34	35	36	32	28	39	3A	3B	37	3C	3E	E1
A-	41	42	43	44	45	46	47	48	49	51	52	53	54	55	56	57
B-	58	59	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
C-	76	77	78	80	8A	8B	8C	8D	8E	8F	90	9A	9B	9C	9D	9E
D-	9F	A0	AA	AB	AC	4A	AE	AF	B0	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7
E-	B8	B9	BA	BB	BC	6A	BE	BF	CA	CB	CC	CD	CE	CF	DA	DB
F-	DC	DD	DE	DF	EA	EB	EC	ED	EE	EF	FA	FB	FC	FD	FE	FF

## B-2 EBCDIC to ASCII

表の見方は次の通りです。

行の左端はEBCDIC文字を16進数にした時の上の桁を、列の上段は下の桁をあらわします。  
 例えば、EBCDIC文字の‘1’は16進数にするとX‘F1’です。この場合、行の‘F-’  
 と列の‘-1’の交点がASCII文字に変換された16進数のX‘31’すなわちASCII  
 文字の‘1’になります。

表B-2. 文字コード変換表 (EBCDIC⇒ASCII)

	-0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-A	-B	-C	-D	-E	-F
0-	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	D	0E	0F
1-	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	1E	1F
2-	80	81	82	83	84	8E	87	8F	88	89	8A	8B	8C	8D	86	7F
3-	90	91	97	93	94	95	96	9C	98	99	9A	9B	9D	85	9E	92
4-	20	A0	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	D5	2E	3C	28	2B	7C
5-	26	A9	AA	AB	AC	AD	AE	AF	B0	B1	21	24	2A	29	3B	5E
6-	2D	2F	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	E5	2C	25	5F	3E	3F
7-	BA	BB	BC	BD	BE	BF	C0	C1	C2	60	3A	23	40	27	3D	22
8-	C3	61	62	63	64	65	66	67	68	69	C4	C5	C6	C7	C8	C9
9-	CA	6A	6B	6C	6D	6E	6F	70	71	72	CB	CC	CD	CE	CF	D0
A-	D1	7E	73	74	75	76	77	78	79	7A	D2	D3	D4	5B	D6	D7
B-	D8	D9	DA	DB	DC	DD	DE	DF	E0	E1	E2	E3	E4	5D	E6	E7
C-	7B	41	42	43	44	45	46	47	48	49	E8	E9	EA	EB	EC	ED
D-	7D	4A	4B	4C	4D	4E	4F	50	51	52	EE	EF	F0	F1	F2	F3
E-	5C	9F	53	54	55	56	57	58	59	5A	F4	F5	F6	F7	F8	F9
F-	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	FA	FB	FC	FD	FE	FF

## C オーディット・レコード・フォーマット

`site getaudit` コマンドによって取り出されるオーディット・レコードのフォーマットです。レコードは42項目で長さが326バイトです。

表C-1. オーディット・レコードのフォーマット

項目#	位置	桁数	説明
1	1	16	顧客コード/ユーザーID
2	17	1	オーディット・レコード・タイプ
3	18	20	パートナーID
4	38	18	(システム使用)
5	56	1	ステータス・フラグ
6	57	15	ステータス記述
7	72	3	削除理由コード
8	75	15	削除理由記述
9	90	20	(システム使用)
10	110	1	(システム使用)
11	111	1	(システム使用)
12	112	8	メッセージ識別コード
13	120	8	ユーザー・メッセージ名
14	128	5	メッセージ順序番号
15	133	8	(システム使用)
16	141	4	(システム使用)
17	145	8	メッセージ数
18	153	8	テキスト・サイズ
19	161	8	受信者メッセージ保管ID
20	169	6	送信日 (YYMMDD)
21	175	6	送信時間 (HHMSS)
22	181	6	受信/削除日 (YYMMDD)
23	187	6	受信/削除送信時間 (HHMSS)
24	193	6	メッセージ出力順序番号
25	199	1	(システム使用)
26	200	17	(システム使用)
27	217	4	(システム使用)
28	221	17	(システム使用)
29	238	4	(システム使用)
30	242	13	(システム使用)
31	255	6	送信終了日 (YYMMDD)
32	261	6	送信終了時間 (HHMSS)
33	267	6	送信コミット終了日 (YYMMDD)
34	273	6	送信コミット終了時間 (HHMSS)
35	279	6	転送終了日 (YYMMDD)
36	285	6	転送終了時間 (HHMSS)
37	291	6	受信開始日 (YYMMDD)
38	297	6	受信開始時間 (HHMSS)
39	303	6	受信終了日 (YYMMDD)
40	309	6	受信終了時間 (HHMSS)

4 1	3 1 5	6	受信コミット終了日 (YYMMDD)
4 2	3 2 1	6	受信コミット終了時間 (HHMMS S)

- 項目 # 1 : 顧客コード/ユーザー I D  
メッセージを受信あるいは送信したユーザーの顧客コードとユーザー I D が入ります。
- 項目 # 2 : オーディット・レコード・タイプ  
オーディット・レコードのタイプが入ります。  
“0” : 項目 # 1 が項目 # 3 にメッセージを送信。  
“1” : 項目 # 1 が自分自身にメッセージを送信。  
“2” : 項目 # 3 が項目 # 1 にメッセージを送信。
- 項目 # 3 : パートナー I D  
最初の 4 桁に空白が入ります。最後の 1 6 桁はパートナーの顧客コードとユーザー I D が入ります。
- 項目 # 4 : システムが使用しています。
- 項目 # 5 : ステータス・フラグ  
メッセージのステータスが入ります。  
“0” : 送信者からは送られたが、まだ受信者のメール・ボックスに蓄積されていない。  
“1” : メッセージは受信された。  
“2” : メッセージは削除された。  
“3” : メッセージはメール・ボックスに蓄積されており、未受信。
- 項目 # 6 : ステータス記述  
メッセージのステータスに関する簡単な記述が入ります。
- 項目 # 7 : 削除理由コード  
メッセージが削除された理由が入ります。  
“0 0 0” : メッセージは削除されていない。  
“0 0 1” : メッセージは受信されずに蓄積期間が過ぎた。  
“0 0 2” : メッセージは送信者によって取り消された。  
“0 0 3” : メッセージは受信者によって、サービス管理責任者機能を使って取り消された。  
“0 0 4” : メッセージは受信者あるいは送信者以外のサービス管理責任者によって取り消された。  
“0 0 5” : メッセージの障害、あるいはユーザーの要求により I E / E X のヘルプ・デスクによって取り消された。  
“0 1 0” : メッセージは配信不可能であった。  
“0 1 1” : メッセージは即時配信不能。
- 項目 # 8 : 削除理由記述  
メッセージが削除された理由に関する簡単な記述が入ります。
- 項目 # 9 : システムが使用しています。
- 項目 # 1 0 : システムが使用しています。
- 項目 # 1 1 : システムが使用しています。
- 項目 # 1 2 : メッセージ識別コード  
メッセージのメッセージ識別コードが入ります。
- 項目 # 1 3 : ユーザー・メッセージ名  
メッセージのユーザー・メッセージ名が入ります。
- 項目 # 1 4 : メッセージ順序番号  
送信者が指定したメッセージ順序番号が入ります。
- 項目 # 1 5 : システムが使用しています。
- 項目 # 1 6 : システムが使用しています。

- 項目 # 1 7 : メッセージ数  
メッセージ数が入ります。
- 項目 # 1 8 : テキスト・サイズ  
メッセージ・テキストのサイズが入ります。
- 項目 # 1 9 : 受信者メッセージ保管 I D  
受信時のメッセージ保管 I D 又はセッション参照キーが入ります。未受信の場合は  
ブランクが入ります。
- 項目 # 2 0 : 送信日 (Y Y M M D D)  
メッセージが送信された日付が入ります。
- 項目 # 2 1 : 送信時間 (H H M M S S)  
メッセージが送信された時間が入ります。
- 項目 # 2 2 : 受信／削除日 (Y Y M M D D)  
メッセージが受信、あるいは削除された日付が入ります。未受信の場合は全て 0  
(ゼロ) が入ります。
- 項目 # 2 3 : 受信／削除送信時間 (H H M M S S)  
メッセージが受信、あるいは削除された時間が入ります。未受信の場合は全て 0  
(ゼロ) が入ります。
- 項目 # 2 4 : メッセージ出力順序番号  
メッセージの受信日に割り振られるメッセージ出力順序番号が入ります。
- 項目 # 2 5 : システムが使用しています。
- 項目 # 2 6 : システムが使用しています。
- 項目 # 2 7 : システムが使用しています。
- 項目 # 2 8 : システムが使用しています。
- 項目 # 2 9 : システムが使用しています。
- 項目 # 3 0 : システムが使用しています。
- 項目 # 3 1 : 送信終了日 (Y Y M M D D)  
メッセージ送信処理が終了した日付が入ります。
- 項目 # 3 2 : 送信終了時間 (H H M M S S)  
メッセージ送信処理が終了した時間が入ります。
- 項目 # 3 3 : 送信コミット終了日 (Y Y M M D D)  
I E / E X が送信メッセージをコミットした日付が入ります。
- 項目 # 3 4 : 送信コミット終了時間 (H H M M S S)  
I E / E X が送信メッセージをコミットした時間が入ります。
- 項目 # 3 5 : 転送終了日 (Y Y M M D D)  
メッセージが受信可能になった日付が入ります。
- 項目 # 3 6 : 転送終了時間 (H H M M S S)  
メッセージが受信可能になった時間が入ります。
- 項目 # 3 7 : 受信開始日 (Y Y M M D D)  
メッセージ受信処理が開始した日付が入ります。
- 項目 # 3 8 : 受信開始時間 (H H M M S S)  
メッセージ受信処理が開始した時間が入ります。
- 項目 # 3 9 : 受信終了日 (Y Y M M D D)  
メッセージ受信処理が終了した日付が入ります。
- 項目 # 4 0 : 受信終了時間 (H H M M S S)  
メッセージ受信処理が終了した時間が入ります。
- 項目 # 4 1 : 受信コミット終了日 (Y Y M M D D)  
I E / E X が受信メッセージをコミットした日付が入ります。
- 項目 # 4 2 : 受信コミット終了時間 (H H M M S S)  
I E / E X が受信メッセージをコミットした時間が入ります。

## D 対話形式によるセッション例

以下は、対話形式によるTCP/IP-FTPとのセッション例です。FTPクライアントの実装の仕方によりサポートされるコマンド形式が異なりますのでご注意ください。

例は以下の二つです。

- ・ 1 ファイルの送信
- ・ 1 ファイルの受信

### 例：1ファイルの送信

リストD-1. 1ファイルの送信例

項番	FTPセッションの入力と応答
1	ftp> <b>open x.x.x.x</b> Connected to x.x.x.x. 220 x.x.x.x IE-FTP server (v4r1m0.d) ready on system JPN.
2	User (x.x.x.x:(none)): <b>IABC.IABC001</b> 331 Enter Password.
3	Password: 230 Ready.
4	ftp> <b>quote site confirm 1</b> 200 NOOP confirmation is set ON.
5	ftp> <b>quote site probe 1</b> 200 PROBE set ON for future commands.
6	ftp> <b>quote site msgrcpts b</b> 200 MSGRCPTS set to 'B' for future send commands.
7	ftp> <b>binary</b> 200 Type now set to I.
8	ftp> <b>lcd c:¥ftp¥send</b> Local directory now C:¥ftp¥send
9	ftp> <b>cd IABC.IABC002/TEXT</b> 250 Currently to user IABC.IABC002 with class TEXT.
10	ftp> <b>put TEXT.TXT</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred to ( ).IABC.IABC002 with class TEXT. 0.K. 36795 bytes sent in 0.28 seconds (131.41 Kbytes/sec)
11	ftp> <b>quote noop</b> 200 File now committed in Information Exchange.

1 2	ftp> <b>bye</b> 221 Goodbye. Thank you for using EDI Services.
-----	---

1. **open** コマンドを出して、TCP/IP-FTP に対してセッションを開始します。
2. IE/EX に対してログインします。  
IE/EX の顧客コード、ユーザー ID を入力します。  
形式は、顧客コード. ユーザー ID です。
3. パスワードを入力します。  
この例では、非表示のため表示されていません。
4. **quote site confirm 1** コマンドを出すことにより、ファイル単位でメッセージをコミットします。（又、この FTP クライアントは、**site** コマンドの複数パラメーターをサポートしていないので **quote** コマンドを使用しています。）
5. **quote site probe 1** コマンドを出すことにより、検証機能を有効にします。この例では、**put** コマンドを出した時に宛先の存在や料金負担区分の検証が行われます。（又、この FTP クライアントは、**site** コマンドの複数パラメーターをサポートしていないので **quote** コマンドを使用しています。）
6. **quote site msgrcpts b** コマンドを出すことにより、EX 形式状況確認メッセージ (@status) を作成するようにします。（又、この FTP クライアントは、**site** コマンドの複数パラメーターをサポートしていないので **quote** コマンドを使用しています。）
7. **binary** コマンドは、データ・タイプを BINARY に変更します。
8. この **lcd** コマンドにより、クライアントのローカルのディレクトリーを “c:¥ftp¥send” に変更しています。送信したいローカル・ファイルがあるディレクトリーです。
9. メッセージを送信したい宛先を指定する為に **cd** コマンドで IE/EX の顧客コード、ユーザー ID とメッセージ識別コードを入力します。  
この例では、宛先は “IABC. IABC002” で、メッセージ識別コードは “TEXT” です。
10. この **put** コマンドは、ローカル・ファイルの “TEXT.TXT” を IE/EX の “IABC. IABC002” 宛にメッセージ識別コードを “TEXT” で送信します。
11. **quote noop** コマンドを用いて送信したメッセージをコミットするように要求します。（又、この FTP クライアントは、**site** コマンドの複数パラメーターをサポートしていないので **quote** コマンドを使用しています。）
12. セッションを終了させるために **bye** コマンドを入力します。  
これは、TCP/IP-FTP との FTP セッションと IE/EX のセッションの両方を終了させます。

## 例：1ファイルの受信

リストD-2. 1ファイルの受信例

項番	F T Pセッションの入力と応答												
1	ftp> <b>open x.x.x.x</b> Connected to x.x.x.x. 220 x.x.x.x IE-FTP server (v4r1m0.d) ready on system JPN.												
2	User (x.x.x.x:(none)): <b>IABC.IABC002</b> 331 Enter Password.												
3	Password: 230 Ready.												
4	ftp> <b>quote site confirm 1</b> 200 NOOP confirmation is set ON.												
5	ftp> <b>quote site msgrcpts b</b> 200 MSGRCPTS set to 'B' for future send commands.												
6	ftp> <b>binary</b> 200 Type now set to I.												
7	ftp> <b>lcd c:¥ftp¥recv</b> Local directory now C:¥ftp¥recv												
8	ftp> <b>cd IABC.IABC001/TEXT</b> 250 Currently to user IABC.IABC001 with class TEXT.												
9	ftp> <b>ls -l</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open <table border="1"> <thead> <tr> <th>Filename (MSGKEY)</th> <th>Sender</th> <th>Class</th> <th>Size</th> <th>Date</th> <th>Time</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FFB50F352040EF18D1C1._IE</td> <td>IABC</td> <td>IABC001</td> <td>TEXT</td> <td>0000000178</td> <td>010110 111847</td> </tr> </tbody> </table> 226 List for user ( ). IABC.IABC001 with class TEXT transferred 0.K. 162 bytes received in 1.04 seconds (0.16 Kbytes/sec)	Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time	FFB50F352040EF18D1C1._IE	IABC	IABC001	TEXT	0000000178	010110 111847
Filename (MSGKEY)	Sender	Class	Size	Date	Time								
FFB50F352040EF18D1C1._IE	IABC	IABC001	TEXT	0000000178	010110 111847								
10	ftp> <b>get TEXT.TXT</b> 200 Port command OK. 150 Data connection ready to open 226 File transferred from ( ).IABC.IABC001 with class TEXT. 0.K. 36795 bytes received in 16.31 seconds (2.26 Kbytes/sec)												
11	ftp> <b>quote noop</b> 200 File now committed in Information Exchange.												
12	ftp> <b>bye</b> 221 Goodbye. Thank you for using EDI Services.												

1. **open** コマンドを出して、TCP/IP-FTP に対してセッションを開始します。
2. IE/EX に対してログインします。  
IE/EX の顧客コード、ユーザー ID を入力します。  
形式は、顧客コード. ユーザー ID です。
3. パスワードを入力します。  
この例では、非表示のため表示されていません。
4. **quote site confirm 1** コマンドを出すことにより、ファイル単位でメッセージをコミットします。（又、この FTP クライアントは、**site** コマンドの複数パラメーターをサポートしていないので **quote** コマンドを使用しています。）
5. **quote site msgrcpts b** コマンドを出すことにより、EX 形式状況確認メッセージ (@status) を作成するようにします。（又、この FTP クライアントは、**site** コマンドの複数パラメーターをサポートしていないので **quote** コマンドを使用しています。）
6. **binary** コマンドは、データ・タイプを BINARY に変更します。
7. この **lcd** コマンドにより、クライアントのローカルのディレクトリーを “c:¥ftp¥recv” に変更しています。受信したいメッセージを置くディレクトリーです。
8. この **cd** コマンドは、お客様のメール・ボックスに蓄積された差出者が “IABC. IABC001” で、メッセージ識別コードが “TEXT” のメッセージだけを表示させるために出されたものです。
9. この **ls** コマンドで、お客様のメール・ボックスにある項番 8 で指定したものと合致するメッセージを表示します。
10. **get TEXT.TXT** コマンドは、お客様のメール・ボックスにあるメッセージ識別コードが “TEXT” のメッセージのうち、一番初めのものをお客様のローカルのクライアントに “TEXT.TXT” というファイルで転送します
11. **quote noop** コマンドを用いて受信したメッセージをコミットするように要求します。（又、この FTP クライアントは、**site** コマンドの複数パラメーターをサポートしていないので **quote** コマンドを使用しています。）
12. セッションを終了させるために **bye** コマンドを入力します。  
これは、TCP/IP-FTP との FTP セッションと IE/EX のセッションの両方を終了させます。

